足寄町子どもの読書活動推進計画

～心をつなぐみんなの本棚～

令和２年度～令和４年度

（２０２０～２０２２）

令和２年３月

足寄町教育委員会

目　　次

第１章　計画策定の背景

1　子どもの読書の意義　1
2　国・北海道の動向　1
3　足寄町の動向　2

第２章　計画の基本的な考え方

1　計画の目的　3
2　取組みの指針　3
3　計画の対象　3
4　計画の期間　3

第３章　現状と課題

1　家庭　4
2　こども園・保育所　5
3　学校　6
4　図書館　7

第４章　推進目標及び推進項目の具体的な取組み

1　みんなが集える魅力ある図書館づくり　8
2　新たな出合いを広げる読書活動の推進　9
3　子どもの読書環境の整備　10

用語解説　11

資料

「足寄町子どもの読書活動推進計画にかかるアンケート」集計結果　12

第１章　計画策定の背景

１　子どもの読書の意義

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

しかしながら、様々な情報メディアの普及による子どもたちの生活環境の変化は大きく、子どもたちの読書時間は短くなってきています。特にインターネットやオンラインゲーム※1、ＳＮＳ※2等を使いすぎるネット依存は、心身への影響として、うつ病や脳の障害、思考能力の低下等を引き起こす恐れがあると言われ、社会性への影響も懸念されています。

そのため、読書活動を行うことにより想像力や豊かな心を育みながら人格を形成していくことが必要です。

また、幼児期には個人差があり、読み聞かせをしても「反応が薄い」、「興味がなさそう」と感じることがあります。しかし、実際には子どもへの影響は大きく、「読んでいる人の声が耳に入ってきている」、「なんとなく絵も記憶に残っている」等、読み聞かせから得られる効果は高いと言われています。そのため、その後の読書活動において、幼児期に読み聞かせをすることは、良い影響があると言われており、コミュニケーションを取りながら、継続していくことが大切です。

すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、読書活動を行うことができるよう、積極的にその環境づくりを進め、次世代を担う人材を育てるための施策を総合的かつ計画的に進めることが必要です。

２　国・北海道の動向

平成１３年１２月に「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」ということを基本理念とした「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されました。

この法律で、都道府県及び市町村は、「子どもの読書活動推進計画」を策定するよう努めることとされました。

国は、「第１次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を平成１４年８月策定し、現在は平成３０年４月に策定した第４次計画を実施しています。

北海道では、国の法律に基づき、平成１５年１１月に国の計画を基本として「第１次北海道子どもの読書活動推進計画」を策定しています。平成２０年３月に第２次計画を、平成２５年３月に第３次計画を、平成３０年３月に第４次計画を策定し、計画に基づき読書普及活動を進めています。

３　足寄町の動向

昭和５８年に、足寄町民センター図書室が設置され、図書の貸出を行っていましたが、限られた町民だけに利用されており、専門職員もいないことから、活発な貸出とは言えない状況が続いていました。

平成３０年１１月に、町民の特望久しかった足寄町図書館が開館しました。町民の約１６％が利用登録され、そのうち０歳から 18 歳までは約４割を占めています。蔵書数が増え、豊富なジャンルの資料を揃えたことで、子どもたちの貸出が飛躍的に増加しました。しかし、多様なメディアや情報化社会による影響や生活の変化により、読書時間は短くなってきています。

また、各学校では、児童・生徒が本に親しむために、図書館及びボランティアと連携を図り、授業時間や休み時間を活用した独自の読書活動を実施しています。

【国】
（平成 13 年 12 月）「子どもの読書活動推進に関する法律」
（平成 14 年 8 月）「子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」
（平成 17 年 7 月）「文字・活字文化振興法」
（平成 30 年 4 月）「第 4 次子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」実施中

【道】
（平成 15 年 11 月）「第 1 次北海道子どもの読書活動推進計画」
（平成 30 年 3 月）「第 4 次北海道子どもの読書活動推進計画」実施中

【町】
（平成 30 年 3 月）「第 5 次足寄町生涯学習推進計画」実施中
（令和 2 年 3 月）「足寄町子どもの読書活動推進計画」策定

第２章　計画の基本的な考え方

１　計画の目的

足寄町子どもの読書活動の推進計画は、「心をつなぐみんなの本棚」をテーマに足寄町の子どもの読書活動の現状分析と課題解決に向けた目標を定め、子どもたちが読書に親しみ、より良い読書習慣を身に付けるため具体的な取組みを示すものです。なお、本計画は国・北海道の計画を踏まえ、「第５次足寄町生涯学習推進計画」等と整合性を図りました。

２　取組みの指針

本町では、地域の実情を踏まえ、子どもたちの読書活動を推進するため、次のような指針を設定します。

① みんなが集える魅力ある図書館づくり
② 新たな出合いを広げる読書活動の推進
③ 子どもの読書環境の整備

３　計画の対象

本計画は、０歳から概ね１８歳までを対象とします。

４　計画の期間

令和２年（2020 年）４月から令和５年（2022 年）３月までの３年間とします。

第３章　現状と課題

１　家庭

家庭は幼い子どもたちが本に触れる初めての場所であり、健やかな成長のための重要な役割を担っている場所でもあります。

全国的に少子化傾向が続く中、足寄町は独自の子育て政策の効果もあり、乳幼児人口に限ると増加傾向にありますが、多様なメディア・情報化社会の影響は大きく、家族の在り方や生活スタイルは例外なく変わりつつあります。今回のアンケートにおいて、「あなたは小さい頃、絵本などを誰かに読んでもらっていましたか」の問いに、小学校４～６年生では「よく読んでもらった」、「ときどき読んでもらった」共に約 33%、中学生でも「よく読んでもらった」が約 52%、「ときどき読んでもらった」が約 43%であり、「母親」との回答が圧倒的に多く見られましたが、小学校１～３年生は「母親」が約２４％に減少し、他の家族や読み聞かせボランティア、保育所の先生など多様化が図られていることが解ります。このことから、家庭と地域が連携して読書活動を行っており、家庭以外の読書環境作りが整ってきていることが伺えます。

こども園・保育所の保護者アンケートから、家庭では３歳までに読み聞かせを始めていることが解り、「お子さんに絵本などを読んでいますか」の問いに「読んでいる」「たまに読んでいる」と答えたのは約８８％で、幼いころから本に親しむことの大切さを認識していることが解ります。しかし、実際は、子どもが成長していくにつれ、多様なメディア・情報化社会の影響から、家庭での読書時間は短くなり、本について話題になることが少ない現状です。

家庭では、豊かな心の育みのために、家族で読書に親しむ工夫や取組みが求められています。保護者が温かい言葉で読み聞かせを行い、本に親しむことは、子どもたちに喜びを与え、楽しい経験として蓄積され、将来にわたり子どもたちの積極的な読書活動の基礎になると考えます。

アンケートで「足寄町図書館によく行く」、「たまに行く」と答えたこども園・保育所の保護者は約７１％と高い結果になっており、図書館がオープンしたことで、家族で読書に親しむ機会が増えてきていることが解ります。図書館としては家庭での読書や家庭での話題になるように架け橋の役割を担い、継続して本に興味を持ってもらえるような取り組みが必要です。

また、乳児健診時に図書館、福祉課、ボランティアが連携しブックスタート事業※３を行っています。これは、親子が触れ合いの時間を共有しながら、豊かな言葉と豊かな心を育んでいけるように、子育て支援の説明とともに、はじめての絵本を手渡す活動です。ブックスタート事業をきっかけとして、乳幼児期から生活の中に、本との触れ合いが位置づけられる機会を増やしていく取組みの必要があります。

２　こども園・保育所

幼児期のこどもたちは、家庭から離れてこども園・保育所で先生や友達と過ごし、さまざまな遊びの中で社会性を身に付け、新たな成長を遂げる大切なときです。この時期の読書体験は、豊かな感性や情緒を育みます。

足寄町には、現在、こども園・保育所が４ヵ所あり、各施設の状況は、すべての施設で図書コーナーを設置し、保育士等が保育活動の中で読み聞かせ時間を多く設けたり、お迎え時にも親子で絵本を読んでいる姿が見受けられます。また、パネルシアター※４やペープサート※５をはじめ、こども園の特色ある取組として、ブラブラシアター※６やワゴン読書※７など工夫を凝らした読書活動にも取り組んでいます。

こども園・保育所の保護者アンケートでは、「幼いころから本に親しむことは大切だと思いますか」との問いに、９９％が「思う」と答えていますが、現実には、「家庭では読み聞かせをする時間や図書館に連れていく時間がない」との結果も出ていることから、子どもたちが多くの時間を過ごすこども園や保育所で、保育士が文字を理解できなくても心が動かされる絵本の読み聞かせを今後も継続していくことが、子どもたちの豊かな創造力を育むことへとつながります。

今後は、こども園・保育所と連携を深め、たくさんの本と出会い、本の楽しさに触れることができるような活動を積極的に支援・協力していき、情報交流を進めながら、子ども園・保育所には、家庭で楽しむ「家読活動※８」の発信・推奨していく窓口となってもらう必要があります。

３　学校

学校における読書活動は、子どもが読書習慣を身につける上で大きな役割を担っており、人格を形成していく重要な活動といえます。

町内の小学校４校、中学校１校の児童・生徒へのアンケートにおいて、「本を読みますか」の問いには、小学校１～３年生は約８２％、４～６年生で約６１％、中学生で約５９％が「読む」と回答しており、読書をする子どもたちが少なくないとなっています。一方で、「読まない」と答えた小学校１～３年生は約１７％、４～６年生は約３９％、中学生は約４１％と次第に増加し、「他にやりたいことがある」、「読みたい本が無い」や「少年団・部活で忙しい」という理由があげられています。

また、「学校の図書室が開いている時は行きますか」の問いに、「よく利用している」、「たまに利用している」と答えたのが小学１～３年生は約７０％、４～６年生は約６５％、中学生は約５９％と次第に減少はしているものの、利用率は半数以上で、電子メディアが使用できない学校においては、読書意識が比較的高いことが伺えます。「利用しない」との答えでは、「読みたい本が無い」、「他にやりたいことがある」という理由があげられています。

子どもたちが本を読まない、図書室を利用しない理由は共通しており、成長するにつれ、読書離れの傾向が強いことが解ります。

アンケート調査から、「空いている時間によくすること」は、テレビ、ゲーム、インターネット・動画サイトの割合が高いことが解り、電子メディア※９の普及による影響もあり、読書の優先順位度が低くなっていることも伺えました。

足寄町図書館は、学校への読書活動の支援として移動図書※１０や本の団体貸出※１１を継続して進めることが必要と考えます。

あわせて、学校図書室の機能強化、図書室担当教諭との情報交流に努めながら学校との連携を深めていく必要があります。

また、芽登・大誉地・螺湾の小学校については、図書館に足を運ぶことが困難なため、配本事業※１２の充実と利用しやすい貸出・返却方法を考える必要があります。

４　図書館

足寄町図書館ルイカは、地域の読書活動のみならず、学習活動の拠点として大きな期待が寄せられ、平成３０年１１月１８日に開館しました。開館以降も、多くの町民が気軽に立ち寄り、心地よい時間を過ごせる空間作りを目指し、魅力ある配架※１３や蔵書※１４の充実を図りながら、町民から愛され利用される図書館づくりを進め、読書活動の普及に努めています。

蔵書冊数は将来的には５万冊を予定していますが、現在約４万２千冊のうち、児童書は約１万７千冊。児童書と絵本の貸出冊数は、オープンから１年間で約２万１千冊となっています。

平成２０年から行っている大誉地・螺湾・芽登小学校と中学校への月１回の配本事業をはじめ、平成２７年から始めた足寄小学校への月１回の移動図書では、その場で子どもたちに本を選んでもらう移動図書は、子どもたちの身近に本を届けることで、自ら本を見つける楽しみとなっています。

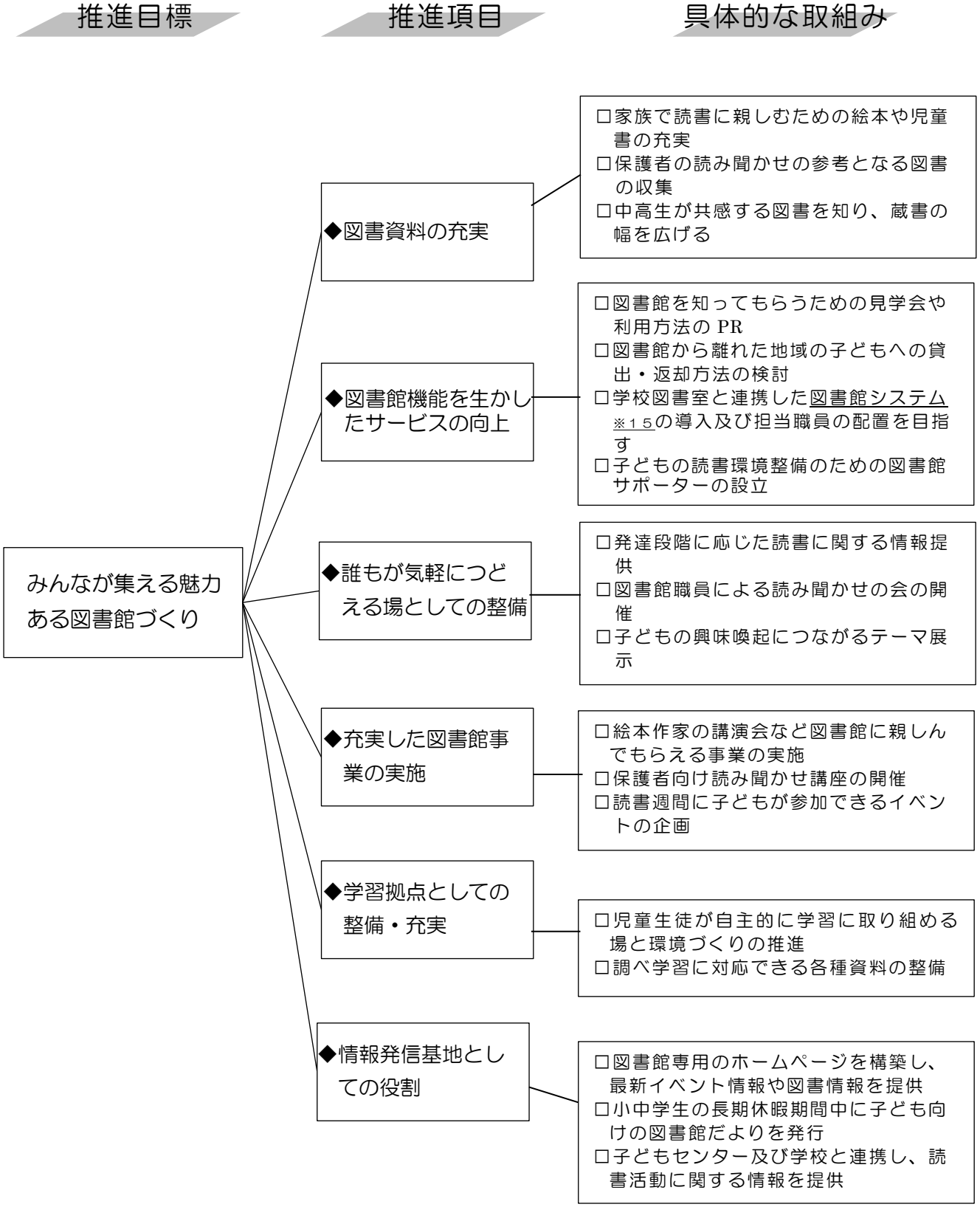
今回実施したアンケートでは、「足寄町図書館を利用していますか」の問いに、小学生は約５８％、中学生は約５１％が利用していると答え、約半数の児童・生徒は関心はあるが、習い事や少年団・部活動で時間がないこと、距離的な問題から行くことが困難であることを理由に利用できないと答えました。未就学児がいる保護者は約７１％が利用していると答え、比較的関心が持たれていることが解りました。

子どもの読書活動を推進するためには、図書館の活用方法を広く知らせるとともに、読書の楽しみを伝える必要があり、幼児から高校生まで各年齢層に対応した図書の収集を行い、さまざまなニーズに応えるための幅広い図書館職員の選書力と知識が求められます。

子どもたちが心地よく読書ができ、気軽に立ち寄る居場所となるための図書館の環境整備やサービスの充実を図りながら、子どもの読書活動の推進に努める必要があります。

第４章　推進目標及び推進項目の具体的な取組み

１　みんなが集える魅力ある図書館づくり



２　新たな出会いを広げる読書活動の推進

推進目標　　推進項目　　具体的な取組み

新たな出会いを広げる読書活動の推進

◆図書館と学校図書室の連携強化

□学校の図書担当教諭と協力し、利用しやすく魅力ある学校図書室づくりに努める
□ボランティア等と協力し、学校での読み聞かせの充実を図る
□小中学生を対象とした「足寄町読書感想文コンクール」の開催
□配本事業及び移動図書館の充実

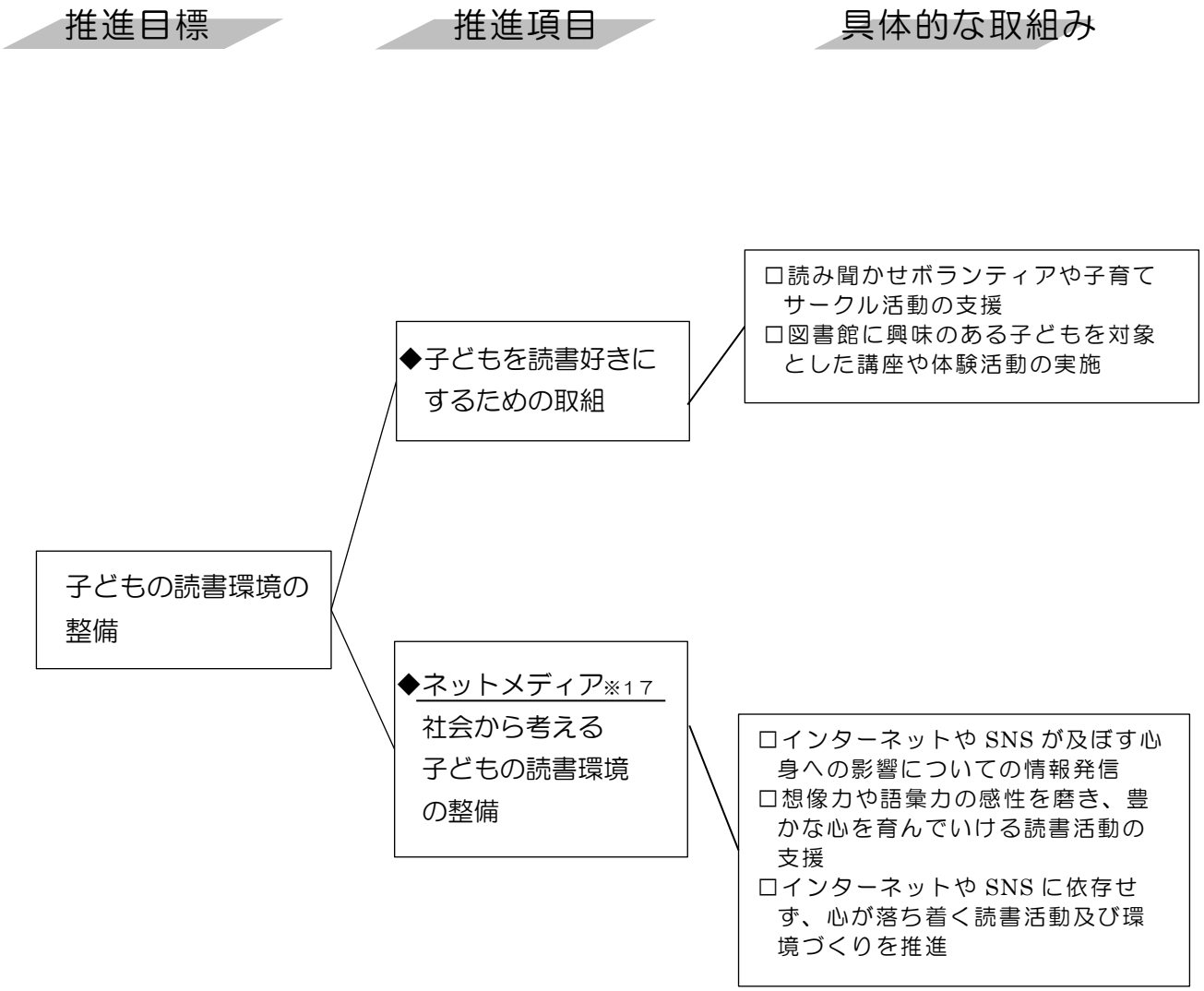
■家庭・地域と連携した読書活動の習慣化

□本とふれ合う機会として、乳児と親を対象とした「ブックスタート」事業の実施
□分館の利用促進のため、児童館職員と協力し、魅力ある書架※１６づくりに努める
□子どもセンターと連携し、子どもたちが本に親しむ環境を整える
□多様なメディアから離れ、親子で本を楽しむ「家読活動」の推奨

◆子どもの読書活動の普及・啓発

□読み聞かせおすすめ本リストの作成
□子育て支援・学習と交流の会「すくすく」などの講座で子どもの読書活動の普及・啓発
□自ら本を見つけて読む楽しさや読書活動に関して気軽に相談できる体制をつくる
□中高生の関心に沿った情報の発信

３　子どもの読書環境の整備



【用語解説】

※１　オンラインゲーム
コンピューターネットワークを利用したゲームのこと。
※２　ＳＮＳ（ｓｏｃｉａｌ　ｎｅｔｗｏｒｋｉｎｇ　ｓｅｒｖｉｃｅ）
インターネット上でコミュニティを形成し、人と人とのつながりをインターネットを通じて構築するサービスのこと。
※３　ブックスタート事業
乳児と保護者に絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動。
※４　パネルシアター
布を貼ったボードに、不織布で作った絵人形を貼ったりはずしたり、裏返したりしながら歌やお話に合わせて演じるもの。
※５　ペープサート
紙に人物などを描いて切り抜いたものに棒を付け、背景の前で動かして演じる人形劇。
※６　ぶらぶらシアター
パネルシアターとも人形劇とも違う新しい形のシアター。厚紙で作った人形を装置につけて揺らすと「ぶらぶら」楽しく揺れることから名付けられた。
※７　ワゴン読書
可動式のワゴンに絵本を乗せて好きな場所に移動し、読書を楽しむ保育活動。
※８　家読（うちどく）活動
家庭で読書の習慣を共有すること。読み聞かせをしたり、家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話したり、本を通じて家族間のコミュニケーションを図ることを目的とした活動。
※９　電子メディア
テレビやＤＶＤ、パソコン、ゲーム機、携帯電話やタブレットなどの電子媒体。
※１０　移動図書
図書館職員が選書した資料を月１回足寄小学校へ持って行き、児童へ貸出をすること。
※１１　団体貸出
公共施設、公共団体などの団体に対する図書館資料の貸出しで、随時必要な時に利用でき、長期貸出も可能なサービス。
※１２　配本事業
図書館へ定期的に通うことが困難な芽登小学校・大誉地小学校・螺湾小学校・ネイパル足寄が対象。読書習慣の確立と促進のために、月１回各８０冊貸出し、学校内・施設内に備え、期間中児童・生徒が自由に利用できる事業。
※１３　配架
図書資料を分類ごとに棚を割り当て、配置する事。
※１４　蔵書
図書を収集し所蔵すること。また所蔵している図書の事。
※１５　図書館システム
公共図書館の運用や活用に関する各種機能（貸出・返却、資料検索、資料登録、予約等）が利用できるシステム
※１６　書架
主として図書を収納、排列するための家具。いわゆる「本棚」の事。
※１７　ネットメディア
インターネットメディアの略。Ｗｅｂサイト上から２４時間、国境を問わず利用できる情報媒体の事。

資　　料

●「足寄町子どもの読書活動推進計画にかかるアンケート」集計結果

・調査目的　　「足寄町子どもの読書活動推進計画」策定にあたり、子どもたちの読書活動の現状を把握するため、「足寄町子どもの読書活動推進計画にかかるアンケート」を実施しました。

・調査時期　　令和元年９月１３日～３０日

・調査対象

	対象人数	回収数	回収率
小学校１～３年生	139 人	135 人	97.1%
小学校４～６年生	164 人	157 人	95.7%
中学校１～３年生	176 人	164 人	93.2%
こども園・保育所保護者	154 人	101 人	65.6%
合　計	633 人	５５７人	87.9%

●小 学 校 1 ～ 3 年 生 集 計

フェイスシート

	男			女			計		
	児童数	回答数	回答率	児童数	回答数	回答率	児童数	回答数	回答率
螺湾小	1	1	100.0%	1	1	100.0%	2	2	100.0%
芽登小	6	6	100.0%	5	5	100.0%	11	11	100.0%
大誉地小	3	3	100.0%	7	7	100.0%	10	10	100.0%
足小	53	52	98.1%	63	60	95.2%	116	112	96.6%
計	63	62	98.4%	76	73	96.1%	139	135	97.1%

問1　　あなたは、空いている時間に何をしますか。よくする順番に並べてください。

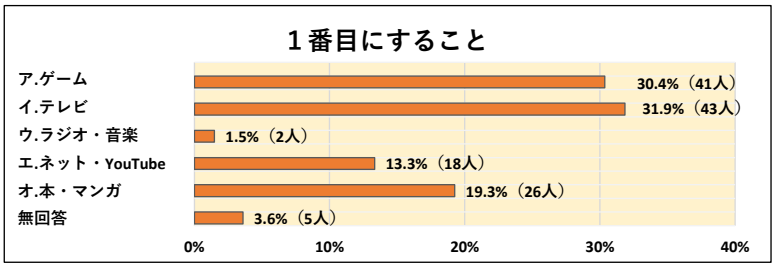
	1番		2番		3番		4番		5番		計
ア. ゲーム	41	30.4%	19	14.1%	13	9.6%	18	13.3%	10	7.4%	101
イ. テレビ	43	31.9%	30	22.2%	35	25.9%	9	6.7%	3	2.2%	120
ウ. ラジオ・音楽	2	1.5%	17	12.6%	20	14.8%	19	14.1%	20	14.8%	78
エ. ネット・YouTube	18	13.3%	36	26.7%	16	11.9%	9	6.7%	17	12.6%	96
オ. 本・マンガ	26	19.3%	21	15.6%	20	14.8%	29	21.5%	11	8.1%	107
無回答	5	3.6%	12	8.8%	31	23.0%	51	37.7%	74	54.9%	173
計	135	100.0%	135	100.0%	135	100.0%	135	100.0%	135	100.0%	675

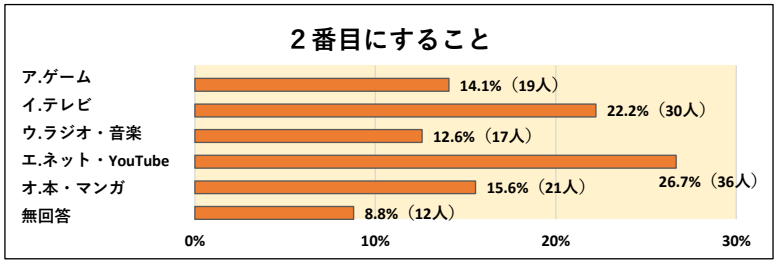
【傾向と分析】

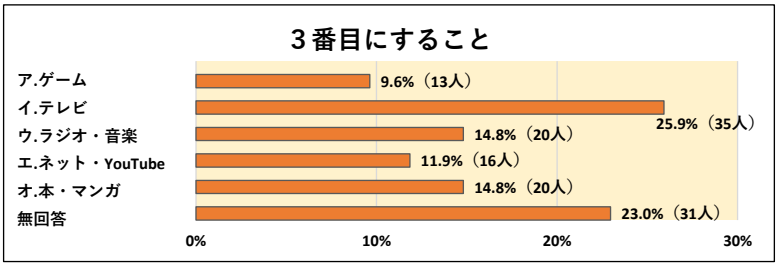
小学校低学年の余暇の時間で多くしていることは、「テレビを見る」で約32%（前回約40%）、続いて「ゲームをする」が約30%（前回約37%）でその次に読書が約19%（前回約17%）だった。アンケート結果では、「ネットや動画サイト」をしている割合が大幅に増えた。前回、ネットやメールを1番多くしているのが約2%だったが、今回は約13%となっており、動画を見て過ごすというスタイルが小学校低学年にまで定着しつつある結果となった。

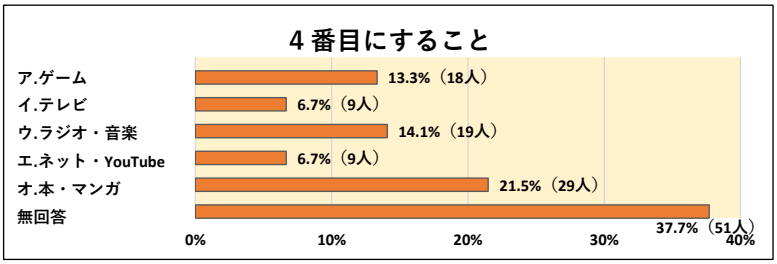
小学校低学年の調査結果で最も多かった回答は「テレビを見る」だったが、「ゲームをする」との差は少なく、「ネットや動画サイト」の普及で、小学校低学年の余暇の過ごし方にも変化が見られた。

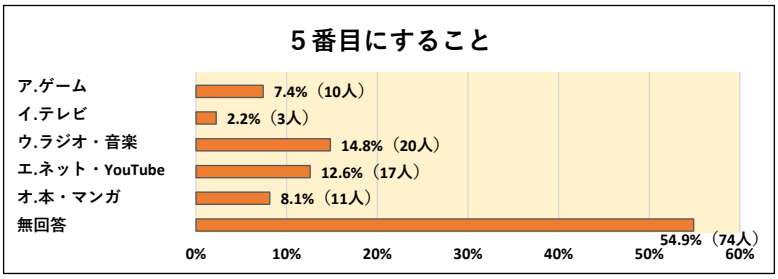
「本・マンガを読む」は、大きな変化はなかったが意外に減少傾向は見られなかった。



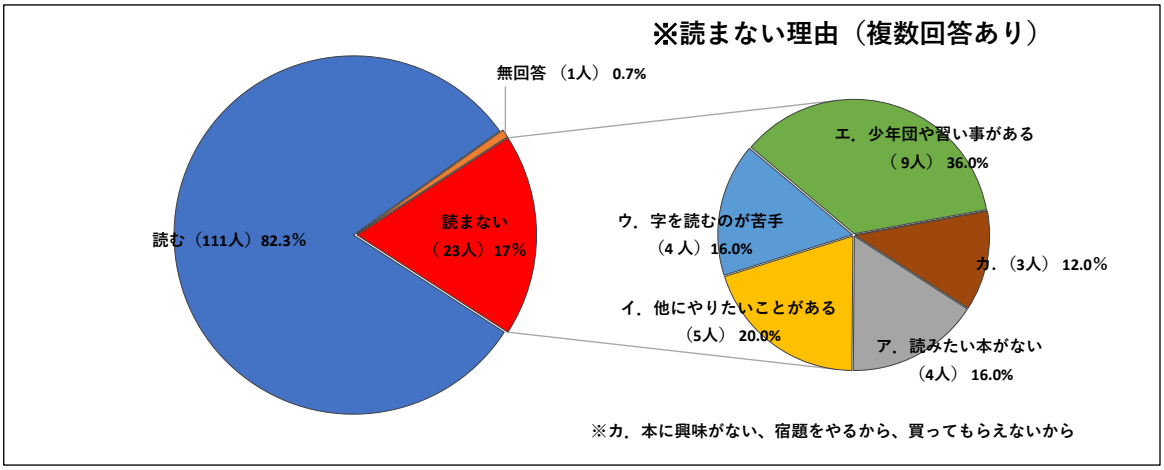








問2　　あなたは本を読みますか。

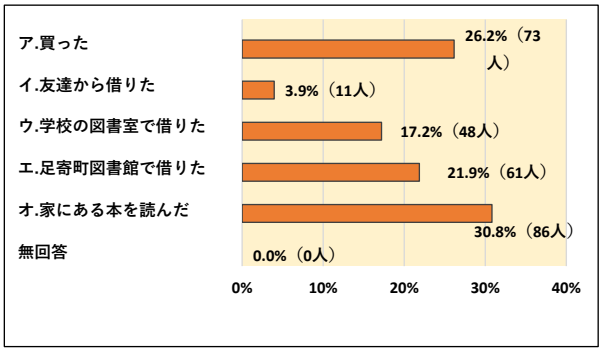


【傾向と分析】

あなたは本をよみますかの設問に対し、[読む」は約82%（前回「好き」約81%）と前回と同等の回答であった。ただ、読まない理由として前回は、「他の遊びのほうがおもしろい」「字を読むのが苦手」の回答が多かったが、今回は約36%が少年団・習い事に時間を割かれて読む時間が少ないとの回答であった。

問3　　あなたは読みたい本をどのように手に入れましたか。

ア．買った		イ．友達から借りた		ウ．学校の図書館で借りた		エ．足寄町図書館で借りた		オ．家にある本を読んだ		無回答		計	
73	26.2%	11	3.9%	48	17.2%	61	21.9%	86	30.8%	0	0.0%	279	100.0%

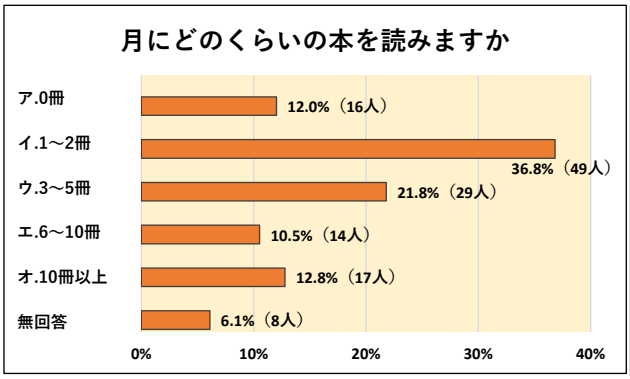


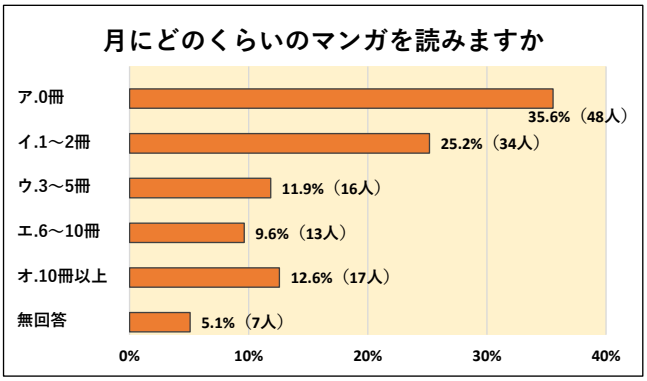
【傾向と分析】

家にある本（約31%）、買う（約26%）、図書館で借りた（約22%）、学校の図書室で借りた（約17%）の順であり、その家庭にある本が読書のきっかけとなると思われる。また、図書館及び学校で借りる割合も少なくはない。

問4　　あなたは月にどれくらい本を読みますか。

	ア．0冊		イ．1～2冊		ウ．3～5冊		エ．6～10冊		オ．10冊以上		無回答		計	
本	16	12.0%	49	36.8%	29	21.8%	14	10.5%	17	12.8%	8	6.1%	133	100.0%
マンガ	ア．0冊		イ．1～2冊		ウ．3～5冊		エ．6～10冊		オ．10冊以上		無回答		計	
	48	35.6%	34	25.2%	16	11.9%	13	9.6%	17	12.6%	7	5.1%	135	100.0%

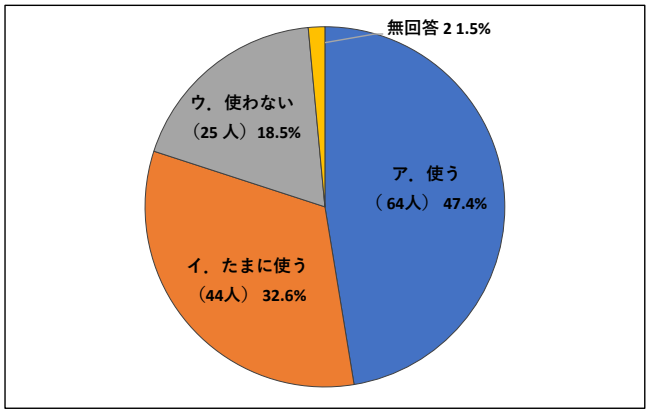


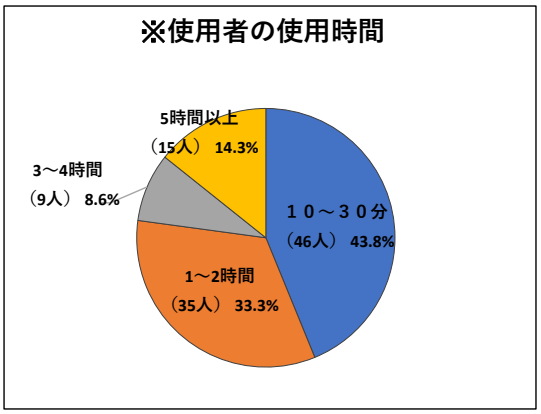


【傾向と分析】

1か月に読む本の冊数について、今回はマンガと分けて調査し、マンガ以外の「本」については、１～２冊が約37%、３～５冊が約22%の順であった。また、マンガについては、読まないが約36%（前回約23%で前々回より13%増）とさらに増加した。
小学校低学年の時は、マンガ以外の本も比較的多く読んでいるという結果となった。1か月にマンガ以外の本を10冊以上読むと回答した児童も約13%おり、この時点での大きな読書離れの傾向は見られない。

問5　　あなたは、けいたい電話やタブレットなどを使いますか？

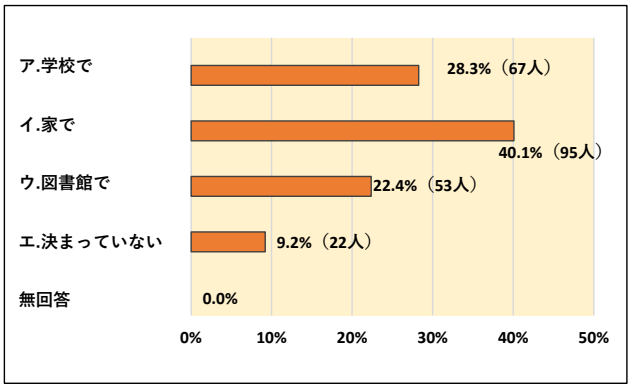




【傾向と分析】
「つかう」が約47%と予想よりもかなり多くの児童が小学校低学年から利用している状況であり、「たまにつかう」も合わせると約80%の児童が使用している。
また、１日の使用時間については、３０分以内が約44%であるが、５時間以上使用している児童が約14%と非常に多かった。

問6　　あなたは、本をどこで読みますか？

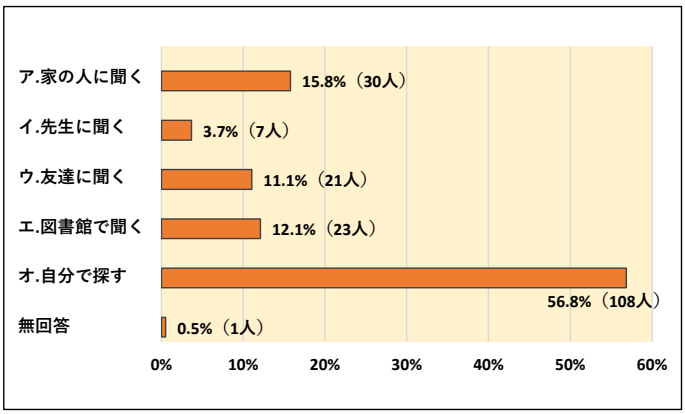
ア．学校で		イ．家で		ウ．図書館で		エ．決まっていない		無回答		計	
67	28.3%	95	40.1%	53	22.4%	22	9.2%	0	0.0%	237	100.0%



【傾向と分析】
家（約40%）、学校（約28%）、図書館（約22%）、決まっていない（約9%）の順であった。
前回は「決まっていない」が約40%を占めていたが、図書館がオープンしたこともあり激減した。

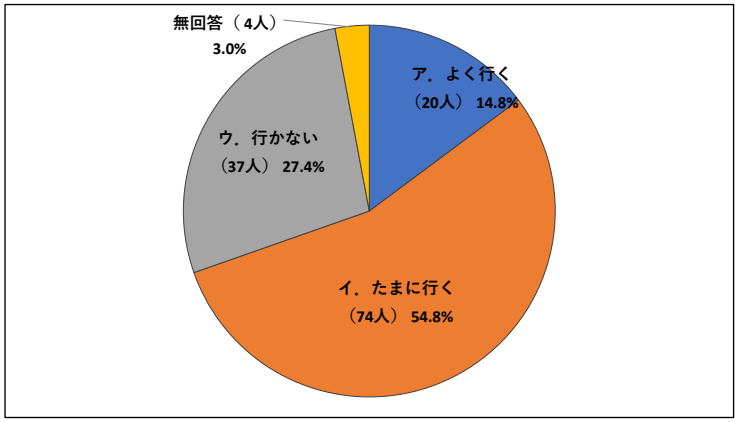
問7　　あなたは本を選ぶとき、どうやってみつけますか？

ア．家の人に聞く		イ．先生に聞く		ウ．友達に聞く		エ．図書館で聞く		オ．自分で探す		無回答		計	
30	15.8%	7	3.7%	21	11.1%	23	12.1%	108	56.8%	1	0.5%	190	100.0%



【傾向と分析】
自分で探す（約57%）、家の人に聞く（約16%）、図書館できく（約12%）の順であった。図書館がオープンしたため「自分で探す」が減少し、「図書館で聞く」に移行した結果となった。また、「自分で探す」には図書館に足を運んで本を選ぶことも含まれていると窺える。

問8　あなたは学校の図書室が開いている時はいきますか？

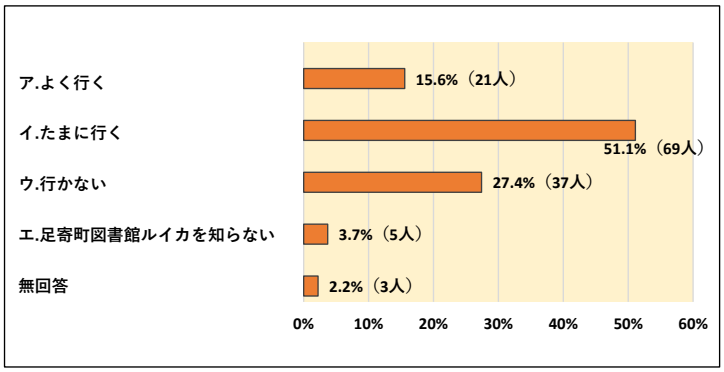


【傾向と分析】
　たまに利用している（約55%）が多いが、よく利用しているは約15%に留まっている。外遊びなど他にやりたいことがあるとの理由であった。

・静かだから
・読みたい本がない（2人）
・読みたくないから
・外で遊びたいから（9人）
・遊びたいから（4人）
・ブランコで遊びたいから
・ブランコすきだから
・鉄棒で遊びたいから
・違うとこで遊びたい
・他の遊びをしたい
・体を動かしたいから
・お父さんの手伝い
・習い事があるから
・行く時間があまりないから
・いそがしいから
・最近学習発表会の練習をしているから
・漢字検定に受かる為勉強をしているから
・絵を書きたいから
・おうちがたのしいから
・さいきんいかなくなった
・みるのがつまらない

問9　あなたは足寄町図書館にいきますか？

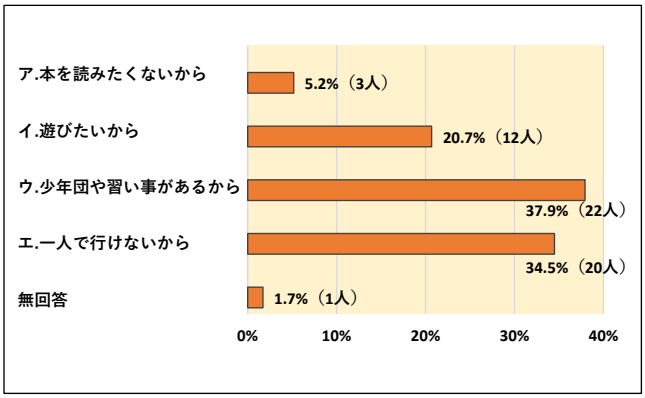
ア．よく行く		イ．たまに行く		ウ．行かない		エ．足寄町図書館ルイカを知らない		無回答		計	
21	15.6%	69	51.1%	37	27.4%	5	3.7%	3	2.2%	135	100.0%



【傾向と分析】
　よく行く（約16%）、たまに行く（約51%）を合わせて67%と町民センター図書室の時と比較して増加しているが、「しらない」との回答も約4%あり、図書館の認知度を高めなければならないと感じる。

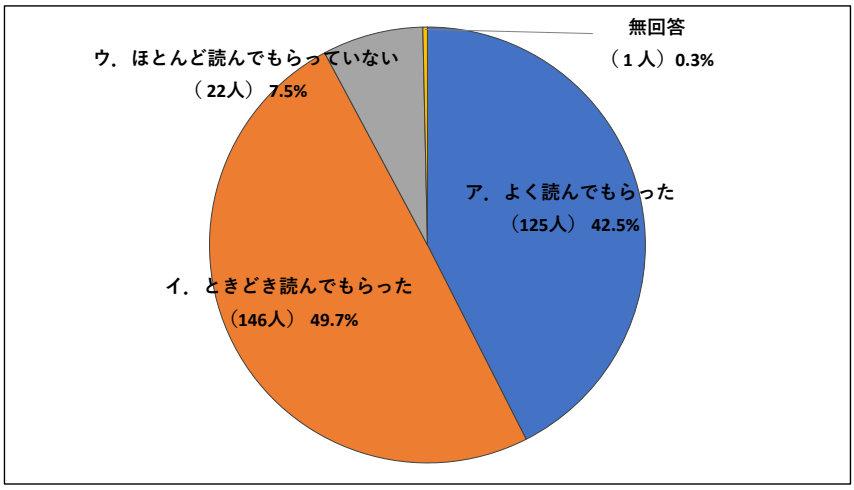
問10　図書館に行かないのはなぜですか？

ア．本を読みたくないから		イ．遊びたいから		ウ．少年団や習い事があるから		エ．一人で行けないから		無回答		計	
3	5.2%	12	20.7%	22	37.9%	20	34.5%	1	1.7%	58	100.0%



【傾向と分析】
　図書館に行かない理由としては、「少年団や習い事」（約38%）が多く、小学校の早い時期から読書に時間を割く余裕がないと思われる。また、「ひとりでは行けない」が約35%と多く、広い町であるために市街地以外から図書館へ行くことが難しいとの結果であった。

問11　あなたは今まで、絵本など本を誰によんでもらったことがありますか？

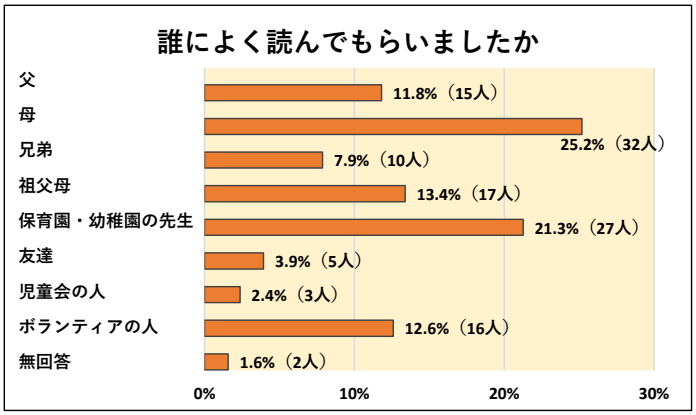


【傾向と分析】

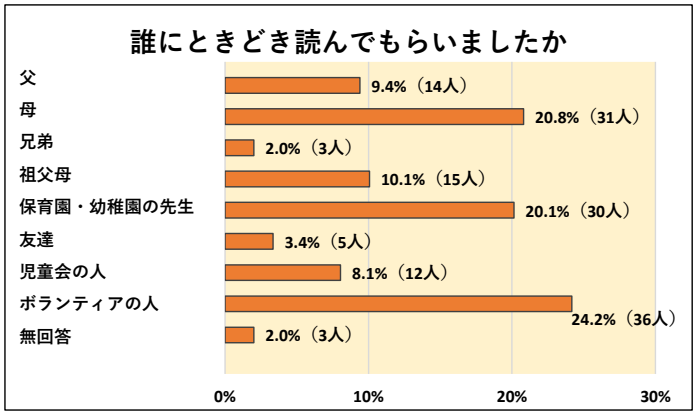
小さい頃、本を「よく読んでもらった」「ときどき読んでもらった」と答えたのは約92%を占めているが、ほとんどよんでもらっていない（約8%）との回答が意外に多かった。

誰に読んでもらったかの問いに対して、前回は「母親」が「よく読んでもらった」、「ときどき読んでもらった」共に60%を超えていたが、今回はそれぞれ20%台であり、父親、祖父母、保育園の先生、ボランティアの人などいろいろな人に読み聞かせをしてもらっている結果となった。

ア	父		母		兄弟		祖父母		無回答	
よく読んでもらった	15	11.8%	32	25.2%	10	7.9%	17	13.4%	2	1.6%
	保育園･幼稚園の先生		友達		児童会の人		ボランティアの人		計	
	27	21.3%	5	3.9%	3	2.4%	16	12.6%	127	100.0%



イ	父		母		兄弟		祖父母		無回答	
ときどき読んでもらった	14	9.4%	31	20.8%	3	2.0%	15	10.1%	3	2.0%
	保育園･幼稚園の先生		友達		児童会の人		ボランティアの人		計	
	30	20.1%	5	3.4%	12	8.1%	36	24.2%	149	100.0%



問12　　自由記述

【傾向と分析】

マンガや図鑑を読みたい意見が多かったが、英語の本やスポーツに関する本にも複数の意見があり関心が高いと感じた。また、「いつも絵本をかしてくれてありがとう。」など図書館を利用されていることが解った。

●小 学 校 4 ～ 6 年 生 集 計

フェイスシート

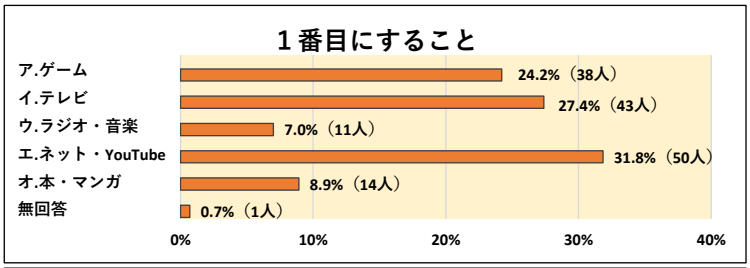
	男			女			計		
	児童数	回答数	回答率	児童数	回答数	回答率	児童数	回答数	回答率
螺湾小	3	3	100.0%	3	3	100.0%	6	6	100.0%
芽登小	6	6	100.0%	1	1	100.0%	7	7	100.0%
大誉地小	5	5	100.0%	9	9	100.0%	14	14	100.0%
足小	73	68	93.2%	64	62	96.9%	137	130	94.9%
計	87	82	94.3%	77	75	97.4%	164	157	95.7%

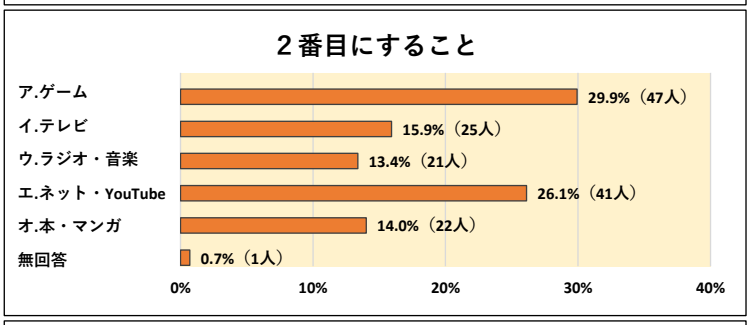
問1　　あなたは、空いている時間に何をしますか？よくする順番に並べてください。

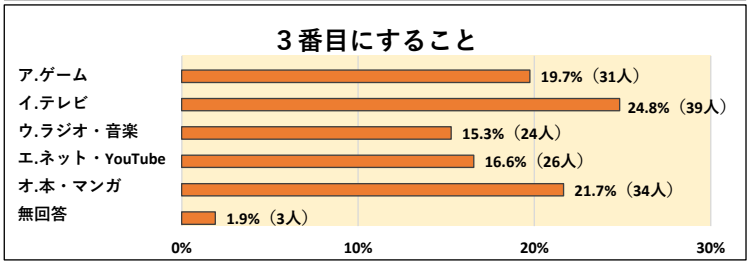
	1番		2番		3番		4番		5番		計
ア. ゲーム	38	24.2%	47	29.9%	31	19.7%	22	14.0%	17	10.8%	155
イ. テレビ	43	27.4%	25	15.9%	39	24.8%	36	22.9%	12	7.6%	155
ウ. ラジオ・音楽	11	7.0%	21	13.4%	24	15.3%	37	23.6%	59	37.6%	152
エ. ネット・youtube	50	31.8%	41	26.1%	26	16.6%	19	12.1%	18	11.5%	154
オ. 本・マンガ	14	8.9%	22	14.0%	34	21.7%	38	24.2%	44	28.0%	152
無回答	1	0.7%	1	0.7%	3	1.9%	5	3.3%	7	4.5%	17
計	157	100.0%	157	100.0%	157	100.0%	157	100.0%	157	100.0%	785

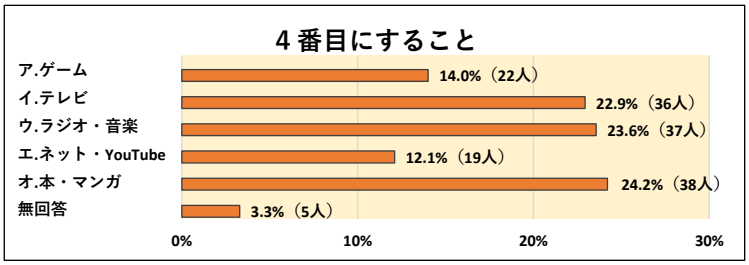
【傾向と分析】

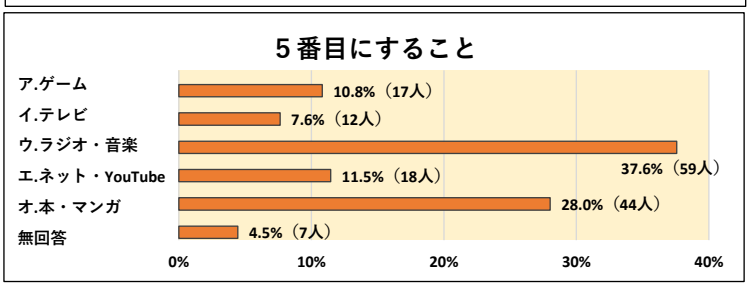
小学校高学年の余暇の時間でよくしていることは、「ネット・動画サイト」で全体の約32%（前回約5%）、続いて「テレビを見る」が約27%（前回約34%）でゲームが約24%（前回約40%）。「本・マンガを読む」は約9%となった。前回と比較すると「ネット」は27%上昇しており、「本・マンガ」は前回に比べると９%減少している。今回の結果によって低学年から高学年に上がるとネットをする時間が大きく増加している傾向にある。



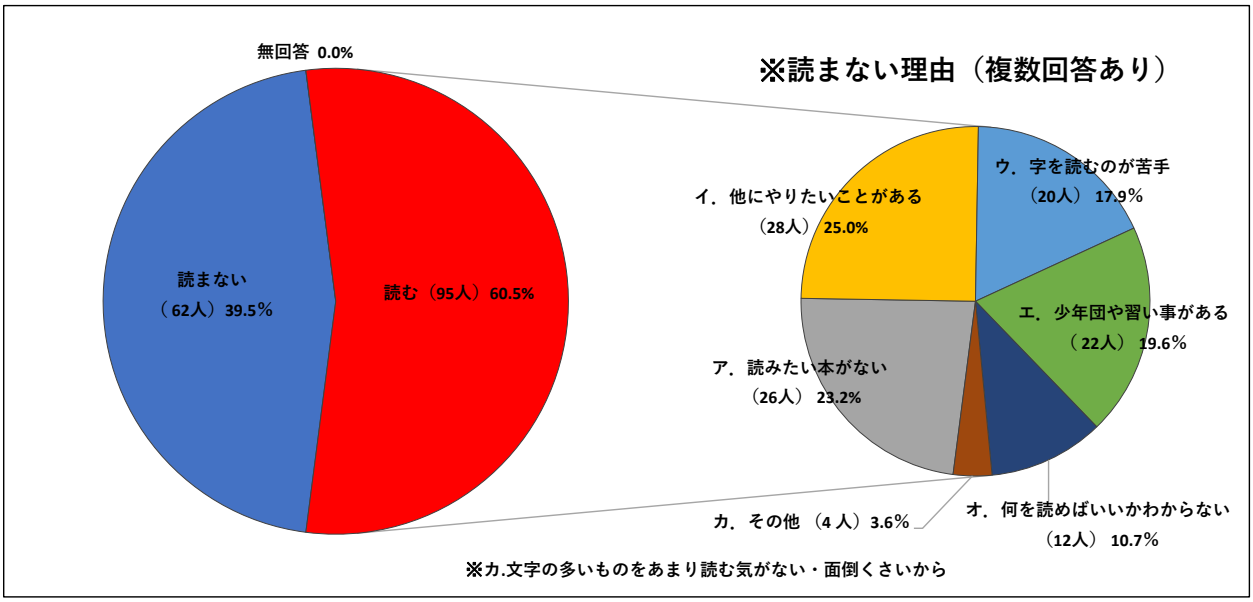








問2　　あなたは本を読みますか？

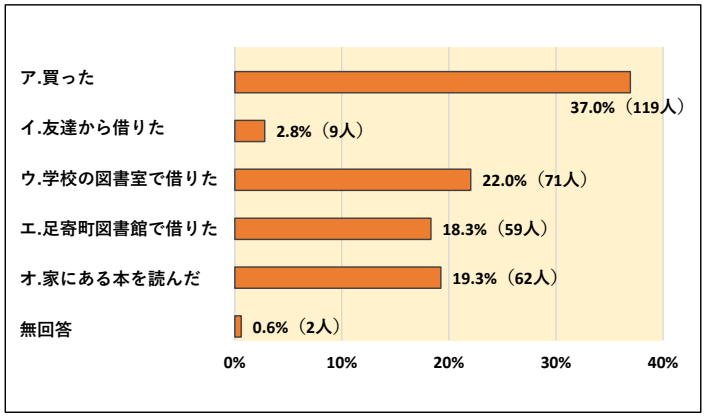


【傾向と分析】

あなたは本をよみますかの設問に対し、「読む」の回答は約61%（前回「好き」約85%）と設問に違いはあるが、低学年に比べると差が大きく見られた。読まない理由としては「他にやりたい事があるから」が約25%で最も多く、続いて「読みたい本がないから」約23%、「少年団や習い事があるから」約20%となった。高学年になるとやりたい事や選択肢が増え、余暇の時間に読書をする優先順位は低い傾向にある。

問3　　あなたは読みたい本をどのように手に入れましたか？

ア．買った		イ．友達から借りた		ウ．学校の図書館で借りた		エ．足寄町図書館で借りた		オ．家にある本を読んだ		無回答		計	
119	37.0%	9	2.8%	71	22.0%	59	18.3%	62	19.3%	2	0.6%	322	100.0%

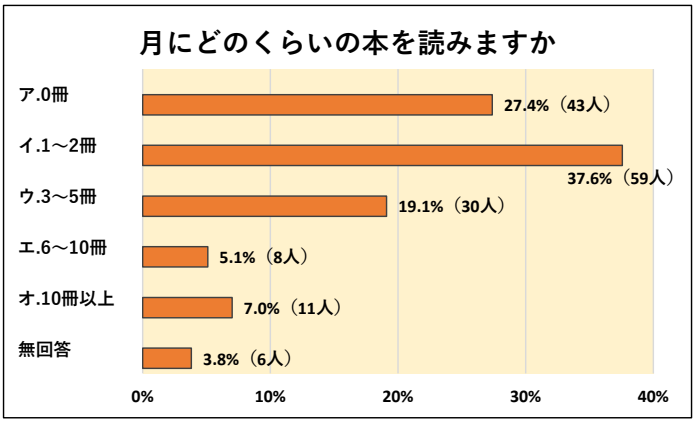


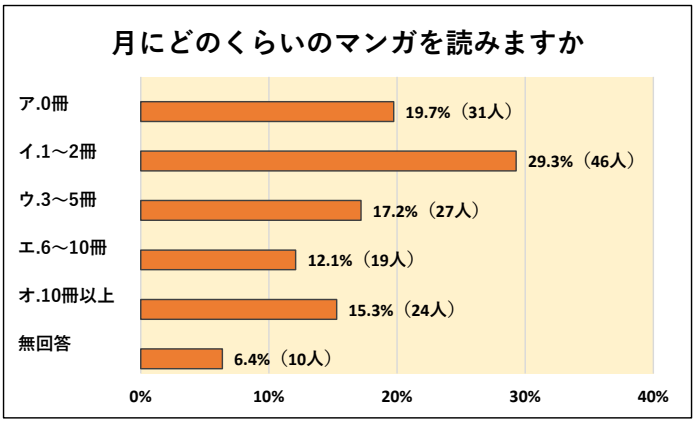
【傾向と分析】

「買った」が約37%、「学校の図書室で借りた」が約22%、「家にある本を読んだ」が約19%であり、自分の好きな本を購入する傾向にある事がわかる。しかし学校図書室で本を借りる割合も２番目に高く、学校図書室の重要性がわかる結果となった。

問4　あなたは月にどれくらい本を読みますか。

本	ア. 0冊		イ. 1～2冊		ウ. 3～5冊		エ. 6～10冊		オ. 11冊以上		無回答		計	
	43	27.4%	59	37.6%	30	19.1%	8	5.1%	11	7.0%	6	3.8%	157	100.0%
マンガ	ア. 0冊		イ. 1～2冊		ウ. 3～5冊		エ. 6～10冊		オ. 11冊以上		無回答		計	
	31	19.7%	46	29.3%	27	17.2%	19	12.1%	24	15.3%	10	6.4%	157	100.0%



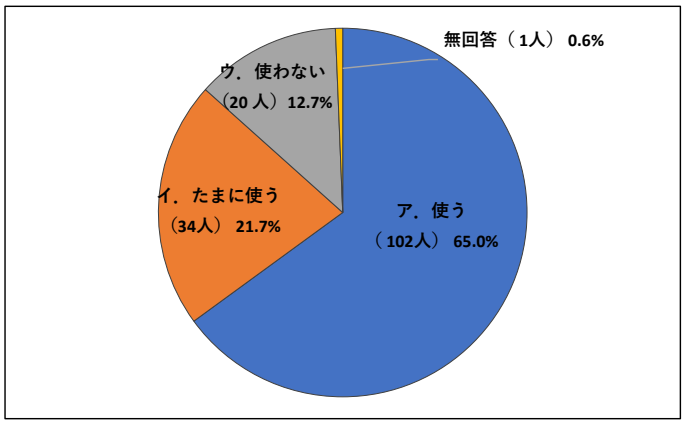


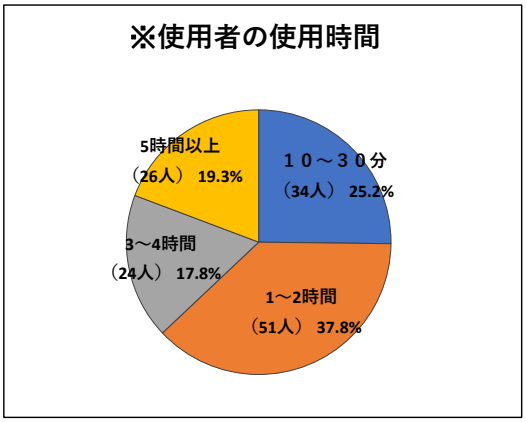
【傾向と分析】

本については「１～２冊」が約38%、「０冊」が約27%、「３～５冊」が約19%となっている。前回「読まない」は約15%であり、本を読まない児童が約13%も上昇している傾向にある。本を読んでいる児童は、前回に比べほぼ同様の結果となった。

マンガについては「１～２冊」が約29%であり６冊以上は約27%。高学年になると読めるマンガのジャンルの幅も広がり、自分の好きなマンガにふれやすいと思われたが、「０冊」が約20%と多くの児童がマンガに偏っているとは言えなかった。ただ、全体的（マンガ・本）に「読まない」は前回に比べると増加傾向にあり、読書離れが進んでいる傾向にある。

問5　あなたは、けいたい電話やタブレットなどを使いますか？



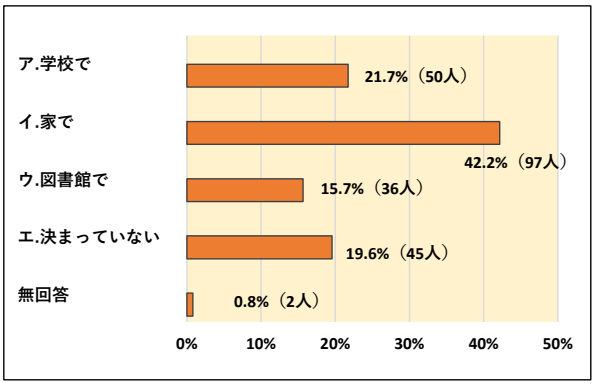


【傾向と分析】

「つかう」が約65%であり低学年よりも約18%増加している。「たまにつかう」を合わせると約87%を占めている。どれ位使うかという問いには、「１～２時間以上」が約38%で最も高く、続いて「５時間以上」が約19%となった事から、長時間にわたり利用している傾向にある。ネット社会が大きく現代に影響し生活の一部となっている状況にある。

問6　あなたは、本をどこで読みますか？

ア．学校で		イ．家で		ウ．図書館で		エ．決まっていない		無回答		計	
50	21.7%	97	42.2%	36	15.7%	45	19.6%	2	0.8%	230	100.0%

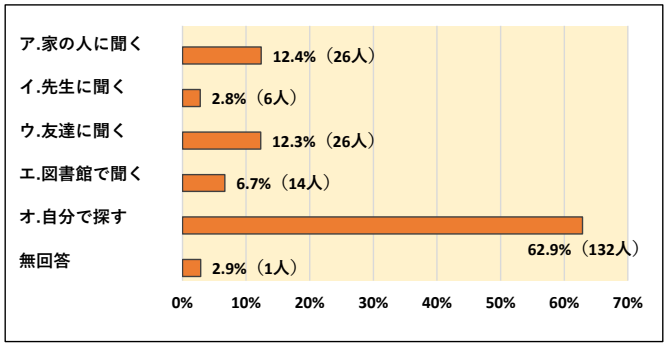


【傾向と分析】

「家」（約42%）、「学校」（約22%）、「決まってない」（約20%）、「図書館」（約16%）の順であった。前回は「図書室」が約３%、「学校」が約８%であったが、図書室、学校共に大幅に上昇している。以上のことから図書館オープンが大きく影響している事がわかる。また、学校での読書習慣により家以外で本を読む傾向が少しずつ表れている事がわかる。

問7　あなたは本を選ぶとき、どうやってみつけますか？

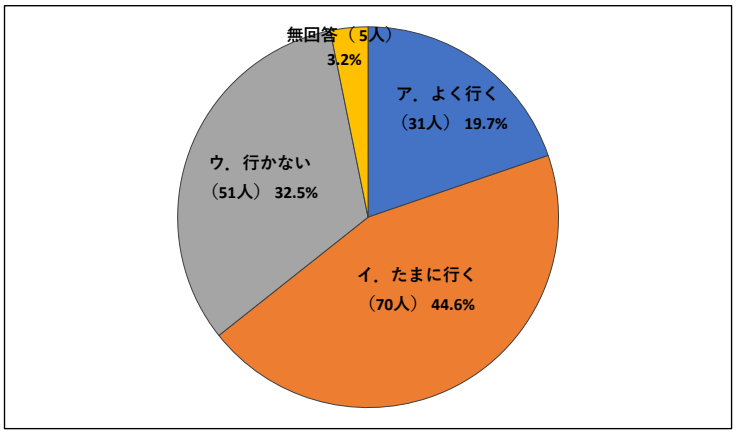
ア．家の人に聞く		イ．先生に聞く		ウ．友達に聞く		エ．図書館で聞く		オ．自分で探す		無回答		計	
26	12.4%	6	2.8%	26	12.3%	14	6.7%	132	62.9%	6	2.9%	210	100.0%



【傾向と分析】

「自分で探す」約63%と圧倒的に多かった。次に、「家の人に聞く」「友だちに聞く」が約12%、「図書館で聞く」は約７%の結果であり、小学校１～３年生よりも「図書館で聞く」が少なかったが、図書館に訪れ、自分で本を選ぶことも含めて「自分で探す」が多かった理由と窺える。

問8　あなたは学校の図書室が開いている時はいきますか？



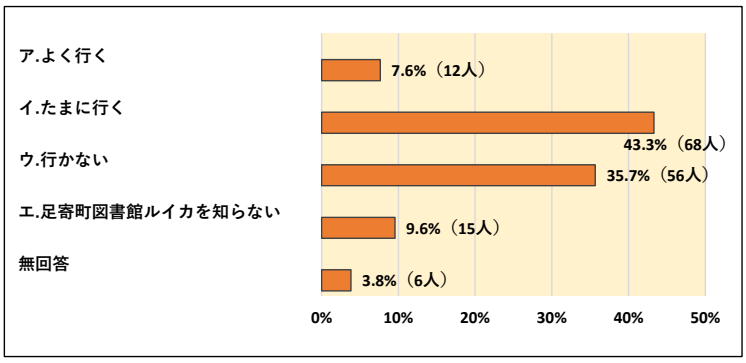
【傾向と分析】

「よく行く」約20%、「たまに行く」約45%、「行かない」約33%、と約半数以上が図書室を利用している事がわかった。ネットと離れた環境の学校にいる時間は、図書室に足を運ぶ時間が少なくないことがわかった。

・遊びたいから（3人）
・好きな本がないから（3人）
・他にやることがあるから（17人）
　（友達と遊ぶ、外で遊ぶ等）
・本に興味がない（4人）
・学校の図書室には本屋さんと違って
　読みたくなるものがない
・体を動かすのが好きだから（3人）
・サッカーをしたいから（2人）
・外で遊びたいから（5人）
・返却が面倒くさい（3人）
・鉄棒の練習
・行く理由がない
・好きな漫画がない
・ケガできないし、できたとしても行かない
・つまらないから
・見ないから
・どこにあるかわからない
・好きな本がないし、自分で探して買ったほうが良い
・本があまり好きでないから（2人）

問9　　あなたは足寄町図書館にいきますか？

ア．よく行く		イ．たまに行く		ウ．行かない		エ．足寄町図書館ルイカを知らない		無回答		計	
12	7.6%	68	43.3%	56	35.7%	15	9.6%	6	3.8%	157	100.0%

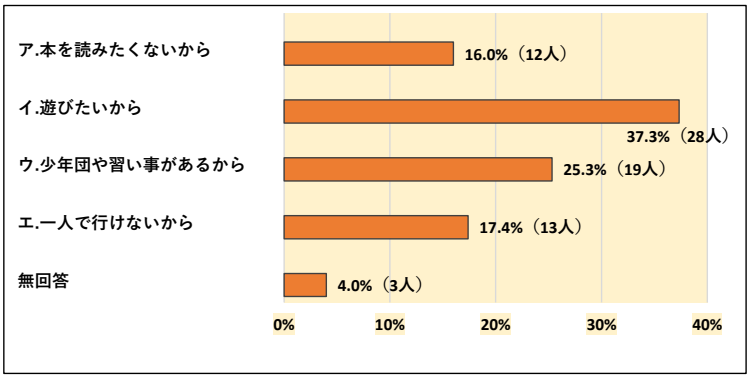


【傾向と分析】

「よく行く」約8%、「たまに行く」約43%合わせて約51%と半数が利用している事がわかった。前回の町民センター図書室を利用している約34%と比較すると大幅に増加している。しかし「行かない」が約36%、「図書館ルイカを知らない」が約10%であった。

問10　　図書館に行かないのはなぜですか？

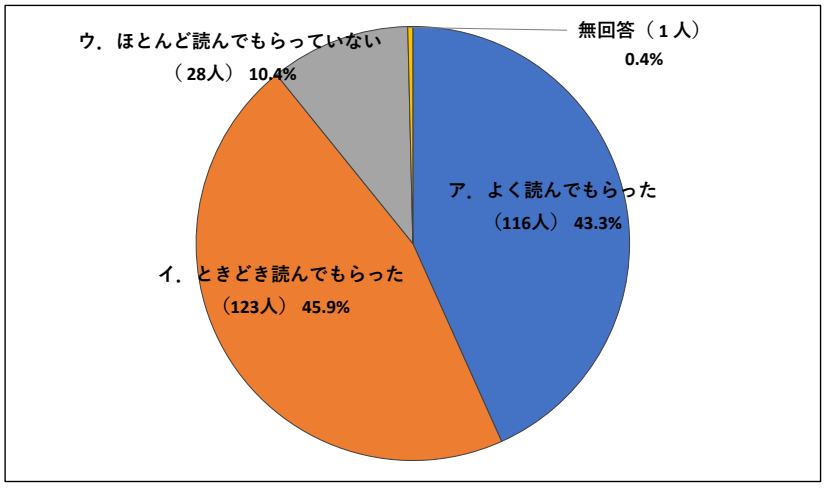
ア．本を読みたくないから		イ．遊びたいから		ウ．少年団や習い事があるから		エ．一人で行けないから		無回答		計	
12	16.0%	28	37.3%	19	25.3%	13	17.4%	3	4.0%	75	100.0%



【傾向と分析】

「行かない」理由としては、「遊びたいから」約37%、「少年団や習い事があるから」が約25%となった。図書館で過ごしたり、本を読むことよりも遊ぶことや少年団や習い事に時間を割いているとの結果となった。

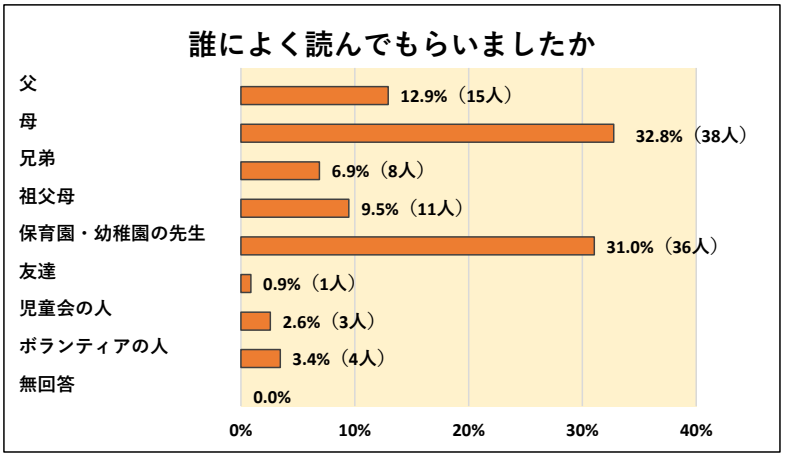
問11　　あなたは今まで、絵本など本を誰によんでもらったことがありますか？



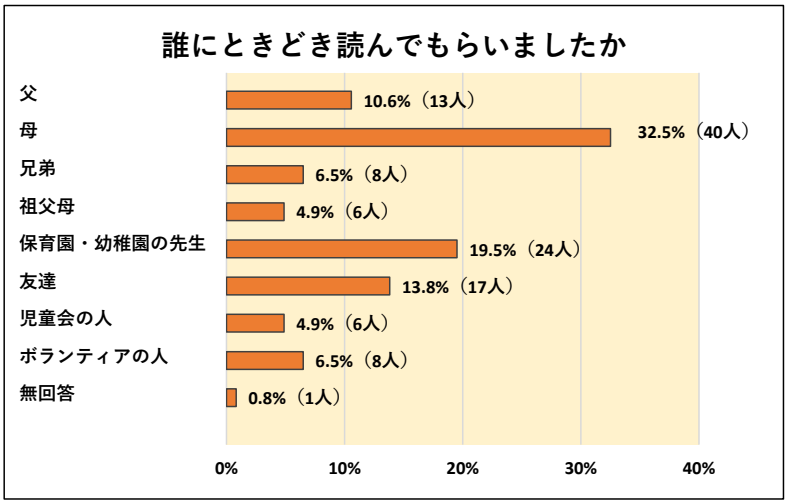
【傾向と分析】

小さい頃、本を「よく読んでもらった」「ときどき読んでもらった」と答えたのは約89%であった。よく読んでもらったの問の回答者で「誰に読んでもらったか」の問いでは、「母親」約33%の次に「保育園・幼稚園の先生」が31%と高い結果となった。

ア	父		母		兄弟		祖父母		無回答	
よく読んでもらった	15	12.9%	38	32.8%	8	6.9%	11	9.5%	0	0.0%
	保育園･幼稚園の先生		友達		児童会の人		ボランティアの人		計	
	36	31.0%	1	0.9%	3	2.6%	4	3.4%	116	100.0%



イ	父		母		兄弟		祖父母		無回答	
ときどき読んでもらった	13	10.6%	40	32.5%	8	6.5%	6	4.9%	1	0.8%
	保育園･幼稚園の先生		友達		児童会の人		ボランティアの人		計	
	24	19.5%	17	13.8%	6	4.9%	8	6.5%	123	100.0%



問12　自由記述

【傾向と分析】

「マンガを増やしてほしい」との意見やDVD（スポーツやアニメ関係）の要望が多かった。

「イベントを増やしてほしい」、「ふるい本を、すてないで町のいる人にあげてほしい」等の要望も多数記載されており、図書館行事の開催が望まれている状況であった。

また、中には「ぜんぜん行かないから、行ってみたい。」、「ルイカに行きたいけど遠いから行けない。」など、図書館に通うのが難しい子どもたちが多いことも解った。

●中 学 校 集 計

フェイスシート

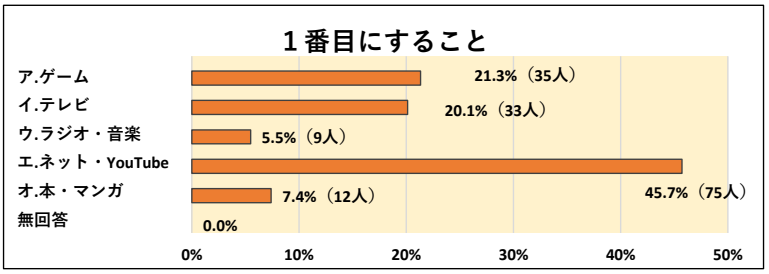
	男			女			計		
	生徒数	回答数	回答率	生徒数	回答数	回答率	生徒数	回答数	回答率
1年	33	32	97.0%	23	22	95.7%	56	54	96.4%
2年	32	29	90.6%	27	26	96.3%	59	55	93.2%
3年	28	25	89.3%	33	30	90.9%	61	55	90.2%
計	93	86	92.5%	83	78	94.0%	176	164	93.2%

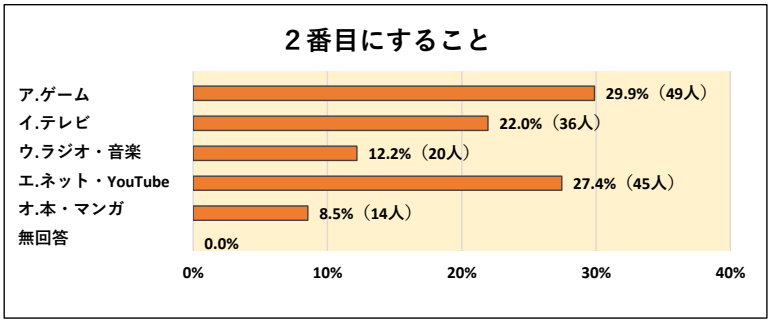
問1　　あなたは、空いている時間に何をしますか？よくする順番に並べてください。

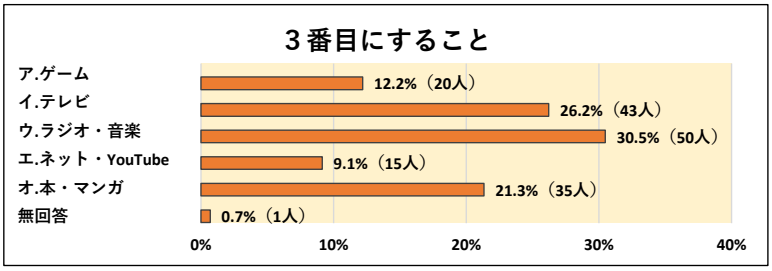
	1番		2番		3番		4番		5番		計
ア. ゲーム	35	21.3%	49	29.9%	20	12.2%	26	15.9%	34	20.7%	164
イ. テレビ	33	20.1%	36	22.0%	43	26.2%	35	21.3%	16	9.8%	163
ウ. ラジオ・音楽	9	5.5%	20	12.2%	50	30.5%	48	29.3%	36	22.0%	163
エ. ネット・youtube	75	45.7%	45	27.4%	15	9.1%	12	7.3%	16	9.8%	163
オ. 本・マンガ	12	7.4%	14	8.5%	35	21.3%	41	25.0%	59	36.0%	161
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	2	1.2%	3	1.7%	6
計	164	100.0%	164	100.0%	164	100.0%	164	100.0%	164	100.0%	820

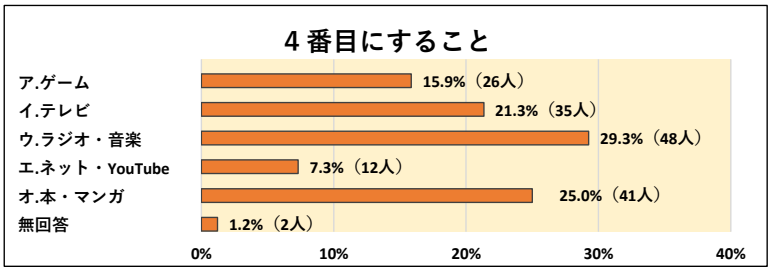
【傾向と分析】

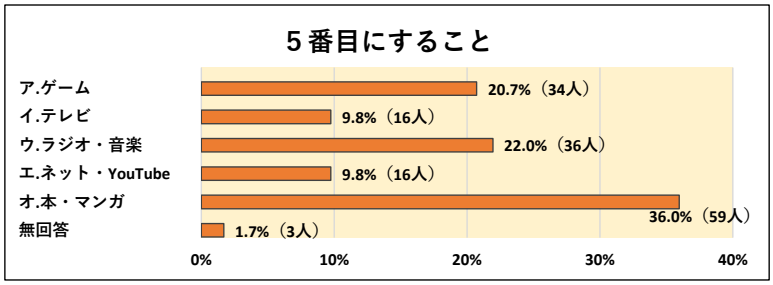
余暇の時間でよくすることは、「ネット・動画サイト」が全体の約46%、続いて「ゲーム」が約21%、「テレビ」が約20%で、「読書」は約7%となり、前回同様、中学生の余暇の過ごし方として、「ネット」や「テレビ」、「ゲーム」の割合が高く、読書をすることの優先順位は低い傾向にある。SNSやアプリゲームが広く普及し携帯を所持している中学生も増えたため、携帯等のネットを使って過ごすことが多いと考えられる。



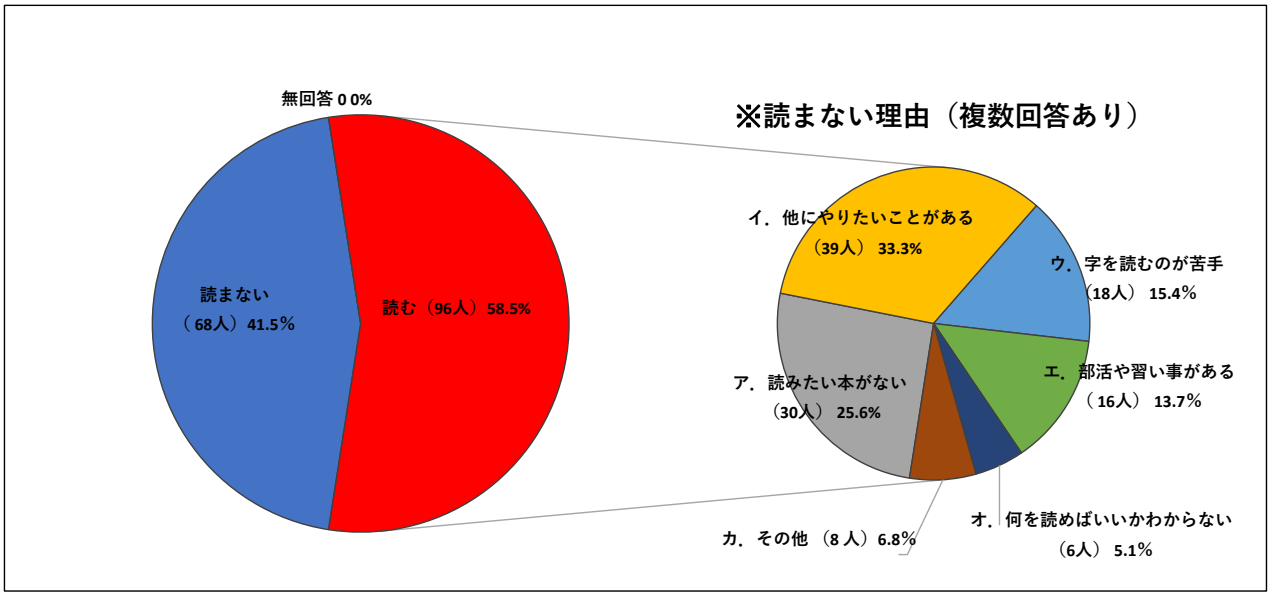








問2　　あなたは本を読みますか？



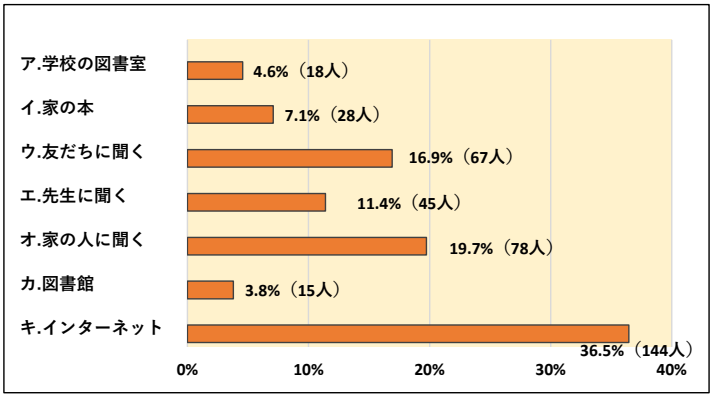
【傾向と分析】

「読む」という回答が約59%、「読まない」という回答は約41%だった。前回は、本を読むのが好きかという問いに「好き」が約78%であり、本を読む割合は減少している。反対に、今回の「読まない」という回答は前回から20%以上増加している。読まない理由として、「他にやりたいことがある」、「読みたい本がない」が60%近くなっている。読書の優先順位が低いことが分かる。前回は、「字を読むのが苦手」と「面倒くさい」の割合が高かったが、今回は「字を読むのが苦手」が約15%となっている。

また、「どの本を読んだらいいか分からない」という回答も約5%あり、中学生向けの本をお勧めすると中学生が本を選びやすいと思われる。全体的に、読書・文字離れの傾向が前回より強まっていると思われる。

問3　　あなたは調べものをする時、どのように調べますか。（あてはまるものいくつでも）

ア. 学校の図書室		イ. 家の本		ウ. 友だちに聞く		エ. 先生に聞く		オ. 家の人に聞く		カ. 図書館		キ. インターネット		無回答	
18	4.6%	28	7.1%	67	16.9%	45	11.4%	78	19.7%	15	3.8%	144	36.5%	0	0.0%
														計	
														395	100%

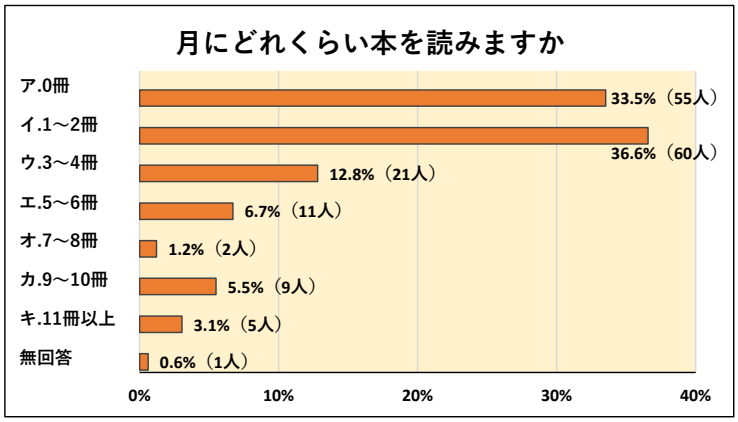


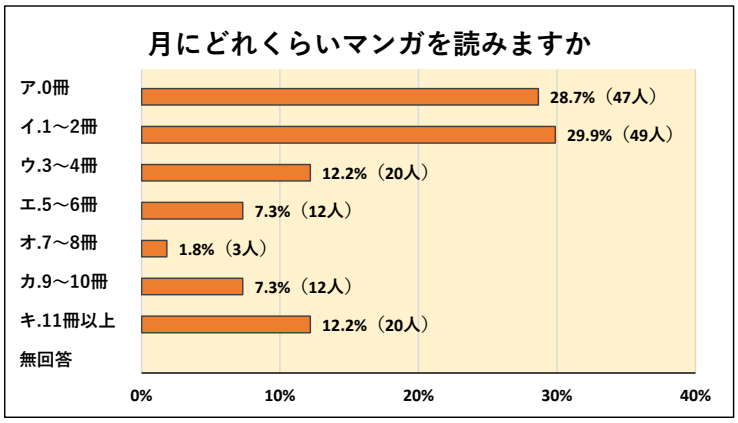
【傾向と分析】

「インターネット」が約37%と圧倒的に高い割合を占めている。続いて、「家の人に聞く」が約20%、「友達に聞く」が約17%と、学校の図書室や図書館で調べるより身近な人に聞く傾向がある。しかし、身近な人に聞くよりも確かな情報とすぐに調べられるネットの割合が高いため、中学生はネット中心の生活になっていると思われる。

問4　あなたは月にどれくらい本を読みますか。

本	ア. 0冊		イ. 1～2冊		ウ. 3～4冊		エ. 5～6冊			
	55	33.5%	60	36.6%	21	12.8%	11	6.7%		
	オ. 7～8冊		カ. 9～10冊		キ. 11冊以上		無回答		計	
	2	1.2%	9	5.5%	5	3.1%	1	0.6%	164	100.0%
漫画	ア. 0冊		イ. 1～2冊		ウ. 3～4冊		エ. 5～6冊			
	47	28.7%	49	29.9%	20	12.2%	12	7.3%		
	オ. 7～8冊		カ. 9～10冊		キ. 11冊以上		無回答		計	
	3	1.8%	12	7.3%	20	12.2%	1	0.6%	164	100.0%

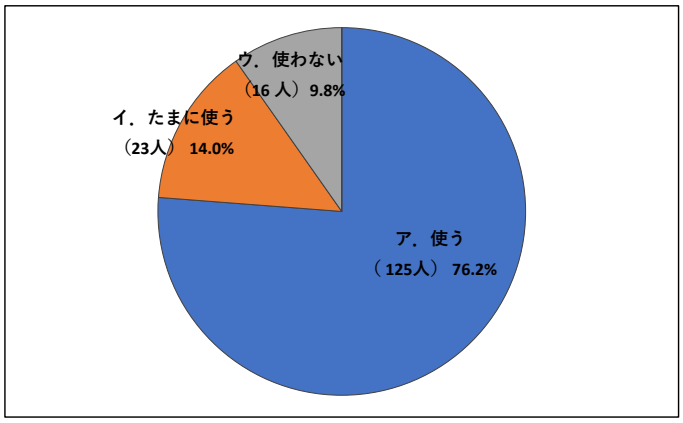


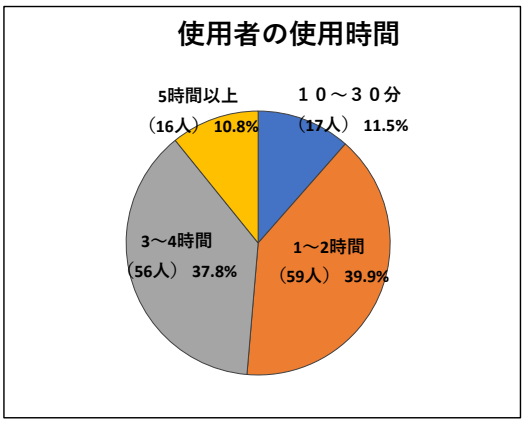


【傾向と分析】

本に関して「1・2冊」が約37%、「0冊」が約34%と前回より本を読まない人や読んでも1、2冊という人が増加している。マンガは「1・2冊」が約30%、「0冊」が約28%であった。しかし、本の「11冊以上」が約3%であるのに対し、マンガは約12%であり本よりマンガを多く読む傾向がある。前回より本とマンガを読む割合が減少しているため、中学生の読書離れの傾向が強いと思われる。また、問1の回答から本を読む優先順位が低いことも読書離れの原因として考えられる。

問5　あなたは、けいたい電話やタブレットなどを使いますか？



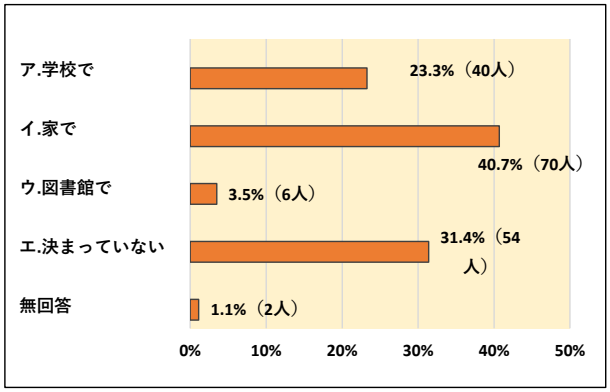


【傾向と分析】

「使う」が約76%、「たまに使う」が約14%と、使用する人の割合が約90%を占めている。どれぐらい使うかという問いでは、「1～2時間」が約40%、「3～4時間」が約38%、「5時間以上」が約11%と、何時間単位で長く使用していることが分かる。問1の余暇の時間にネットをすることの割合が高いことも含め、ネットに1日の時間を費やす中学生が多いことが分かる。

問6　　あなたは、本をどこで読みますか？

ア．学校で		イ．家で		ウ．図書館で		エ．決まっていない		無回答		計	
40	23.3%	70	40.7%	6	3.5%	54	31.4%	2	1.1%	172	99.9%

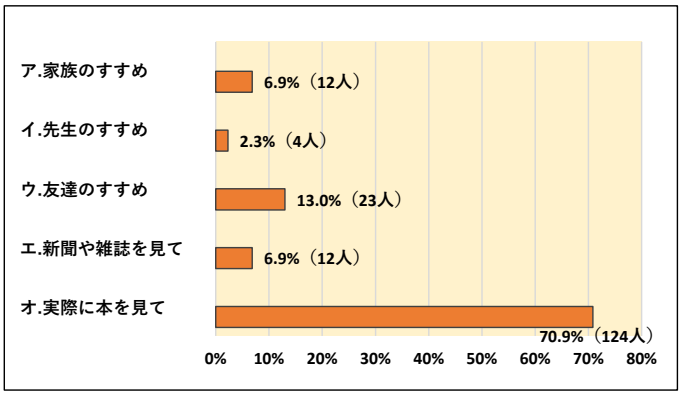


【傾向と分析】

「家」が約41%、「学校」が約23%、図書館は約4%と低かった。また「決まっていない」が約31%だった。前回は「家」が約64%と本を借りても家に持ち帰り読むことが多かったが、今回の回答からみると家だけでなく学校でも読む傾向が出てきた。

問7　　あなたは本を選ぶとき、何を参考にしますか。

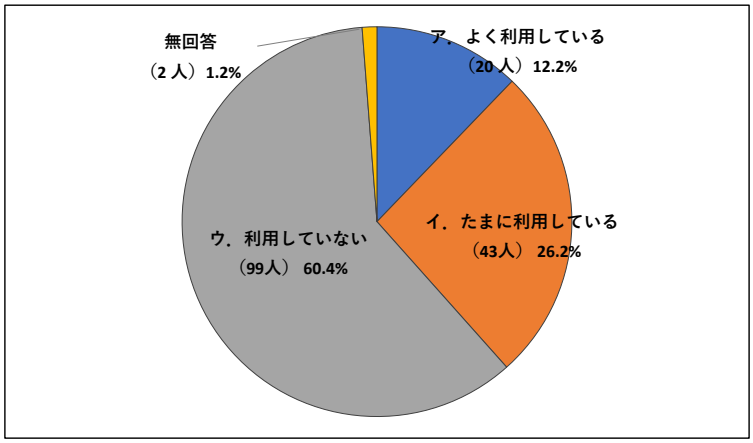
ア．家族のすすめ		イ．先生のすすめ		ウ．友達のすすめ		エ．新聞や雑誌を見て		オ．実際に本を見て		計	
12	6.9%	4	2.3%	23	13.0%	12	6.9%	124	70.9%	175	100.0%



【傾向と分析】

前回と近い結果で「実際に本を見て」が約71%、「友達のすすめ」が約13%だった。続いて、「家族のすすめ」と「新聞や雑誌をみて」という回答が約7%と同様の割合だった。実際に本の表紙や中を見て選んでいる人が多いことが分かる。

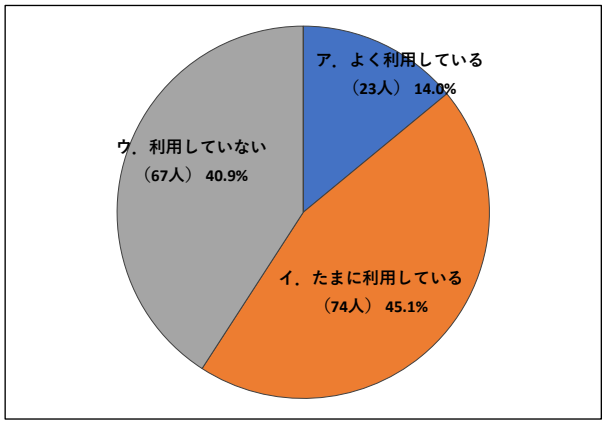
問8　　あなたは電子書籍を利用していますか。

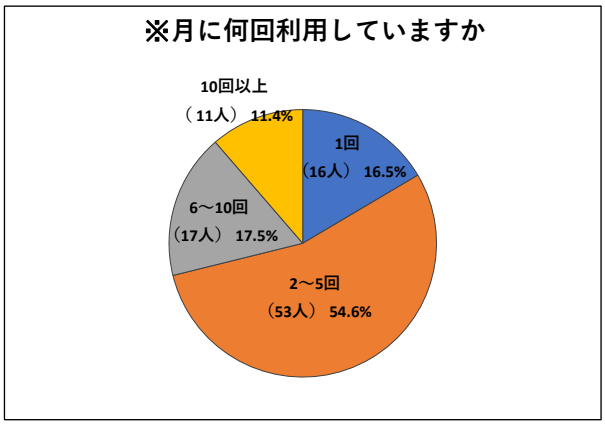


【傾向と分析】

「利用していない」が約60%、「よく利用している」と「たまに利用している」を合わせると約38%だった。ネットの利用が多いものの携帯等で読書はしない人が多いことが分かる。

問9　　あなたは学校の図書室を利用していますか。



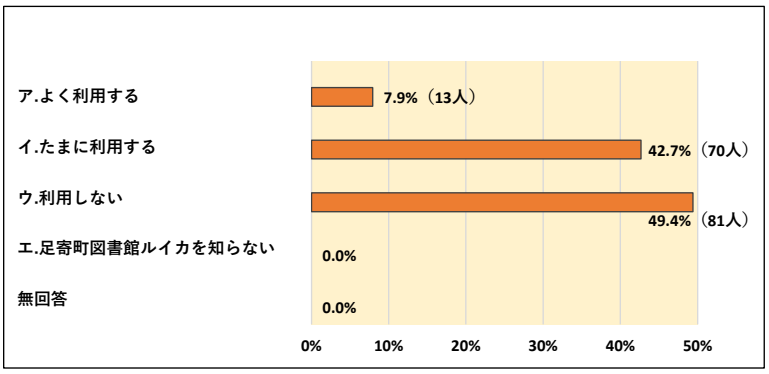


【傾向と分析】

「よく利用している」が約14%、「たまに利用している」が約45%、「利用していない」が約41%との結果となった。前回から、利用していないが10%以上減少し、利用した人の割合が20%程増加しているため、図書室の利用自体が増加してきている。また、前回「たまに利用する」と答えた生徒は「1～2回」という回答が多かったが、今回は「2～5回」が半数を占めており、利用回数も増えている。

問10　　あなたは足寄町図書館を利用していますか。

ア．よく利用する		イ．たまに利用する		ウ．利用しない		エ．足寄町図書館ルイカを知らない		無回答		計	
13	7.9%	70	42.7%	81	49.4%	0	0.0%	0	0.0%	164	100.0%

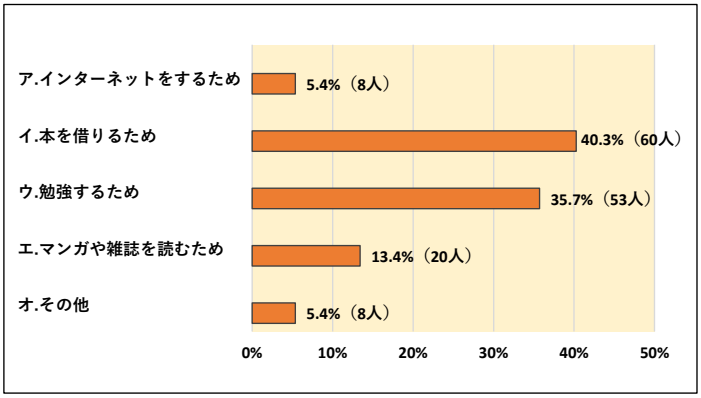


【傾向と分析】

「利用していない」が約49%と半数に近い割合だった。「よく利用している」、「たまに利用している」を合わせると約51%と、利用していない生徒との割合が同様であることが分かる。「知らない」という回答はなしであったため、知名度は上がっていると思われる。前回の町民センター図書室の利用は約22%であったため、図書館を利用する生徒が増加している。

問11　　図書館に行く理由はなんですか。

ア．インターネットをするため		イ．本を読む・借りるため		ウ．勉強するため		エ．マンガや雑誌を読むため		エ．その他		計	
8	5.4%	60	40.3%	53	35.7%	20	13.4%	8	5.4%	149	100.0%

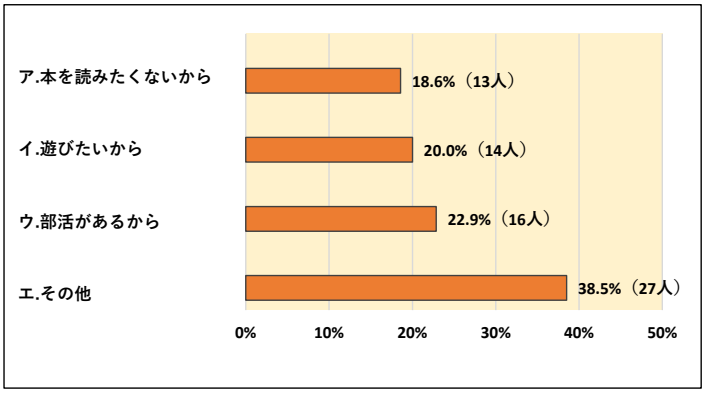


【傾向と分析】

「本を読む・借りるため」が約40%、「勉強するため」が約36%、「マンガや雑誌を読むため」が約13%だった。問6の回答の通り図書館で本を借りても家や学校で読む生徒が多いと思われる。勉強をする生徒も多いため、中学生が勉強しやすい環境づくりも必要だと思われる。また、問4でマンガを読む生徒が多いことが分かったが、図書館でのマンガの貸出は少ない。

問12　図書館に行かないのはなぜですか。

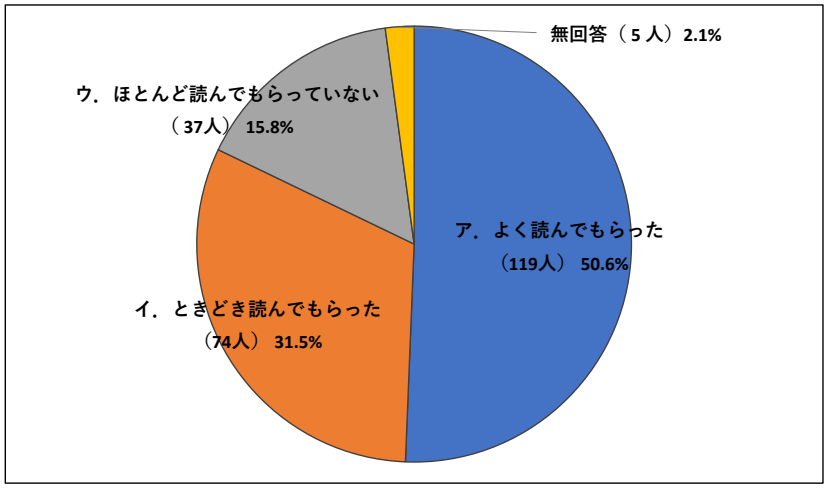
ア．本を読みたくないから		イ．遊びたいから		ウ．部活があるから		エ．その他		計	
13	18.6%	14	20.0%	16	22.9%	27	38.5%	70	100.0%



・利用者カードを失くしたから
・足寄町の住人でないからいけない
・行く理由や必要がない（3名）
・ゲームや動画を見たいから
・行くのが面倒くさい（2名）
・本を読む暇があるならサッカーをする
・買う派だから
・興味がない
・バスケットボールをしたいから
・自分の好きなことがしたいし、本を読むのは無駄に感じる
・知っている人がいるかもしれないから
・別に行かなくても本は家にあるからわざわざ行かない
・家に本があるし、読みたい本が無いから
・わざわざ図書館に行って、本を読む必要がないから

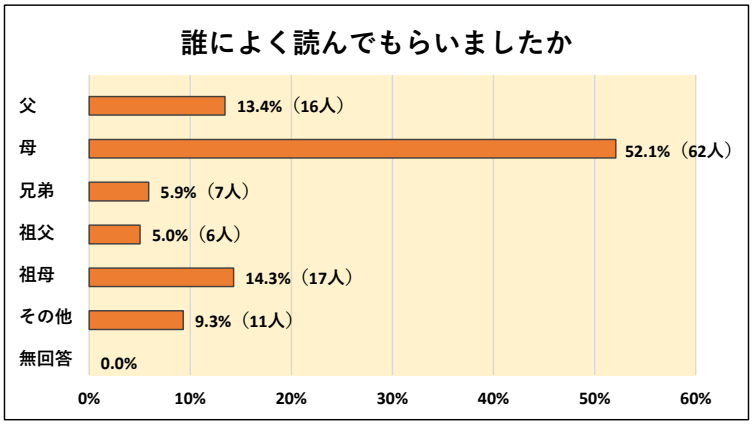
【傾向と分析】
「その他」が約39%で、理由として「行く時間・理由が無い」や「家に本があり図書館に行かなくてもいい」等の回答があった。続いて、「部活があるから」が約23%、「遊びたいから」が約20%だった。部活等で忙しく行く時間が無い生徒や好きなことをしたいから行かない生徒が多い。問1の回答に関連し読書の優先順位が低いため、本を借りるよりネットやスポーツなど好きなことをして過ごしたい生徒が多いと思われる。また、「図書館が遠いため行けない」という回答もあった。

問13　あなたは小さい頃、絵本など本を誰によんでもらったことがありますか？

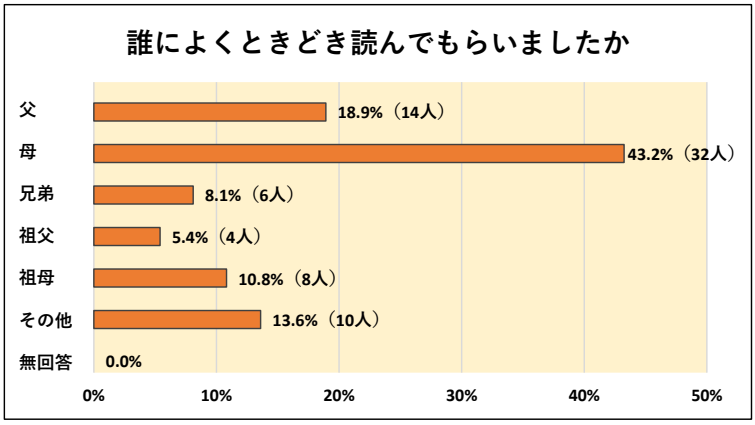


【傾向と分析】
「よく読んでもらった」と「ときどき読んでもらった」が合わせて約82%と高い割合だった。前回は、合わせて約68%であったため、読んでもらっている生徒が増えてきている。一方、「ほとんど読んでもらっていない」という回答が約16%あり、前回から11%程減少したものの読んでもらっていない生徒も多い傾向である。また、誰に読んでもらったかという問いに対し、「よく読んでもらった」生徒、「ときどき読んでもらった」生徒、どちらも「母」に読んでもらったという生徒が多かった。読書や読み聞かせに関して母の関わりが多いことが分かる。前回から、父と兄弟も読み聞かせに関連している割合も高くなっている。

ア	父		母		兄弟		祖父	
よく読んでもらった	16	13.4%	62	52.1%	7	5.9%	6	5.0%
	祖母		その他		無回答		計	
	17	14.3%	11	9.3%	0	0.0%	119	100.0%



イ	父		母		兄弟		祖父	
ときどき読んでもらった	14	18.9%	32	43.2%	6	8.1%	4	5.4%
	祖母		その他		無回答		計	
	8	10.8%	10	13.6%	0	0.0%	74	100.1%



問14　自由記述

【傾向と分析】

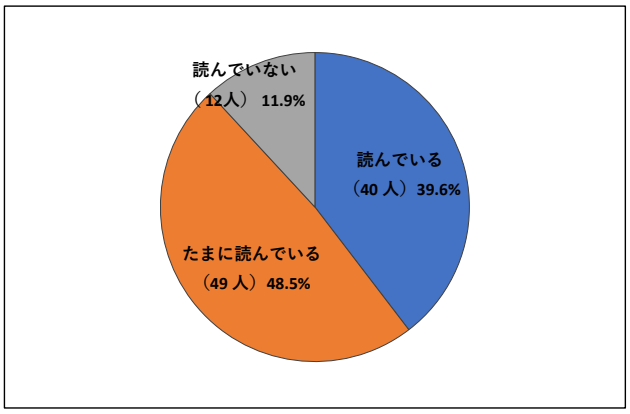
マンガを読む生徒が多いため、実写化したものやジャンプ等に掲載されている新しいマンガを置いてほしいという意見が多かった。また、中学生向けの読みやすい小説やライトノベルを置いてほしいという声も多い。他には、部活や歴史、動物、科学等それぞれの分類の本の種類を増やしてほしいという意見もあった。なかには、マナーを守らない人やうるさい人がいるとの意見もあった。

●保 護 者 集 計

フェイスシート

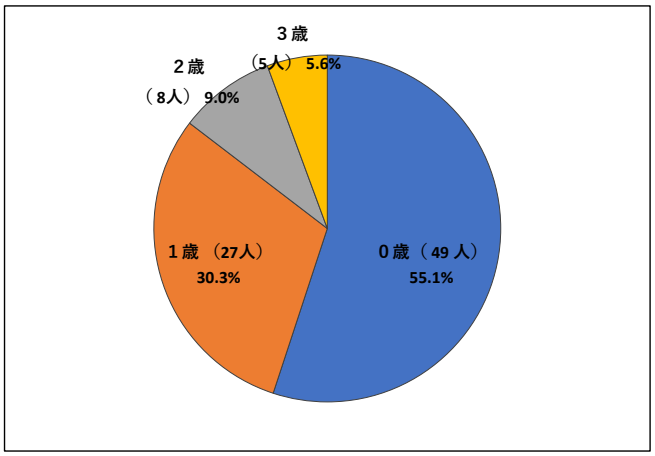
	配布数	回答数	回答率
計	154	101	65.6%

問1　　お子さんに絵本などを読んでいますか。



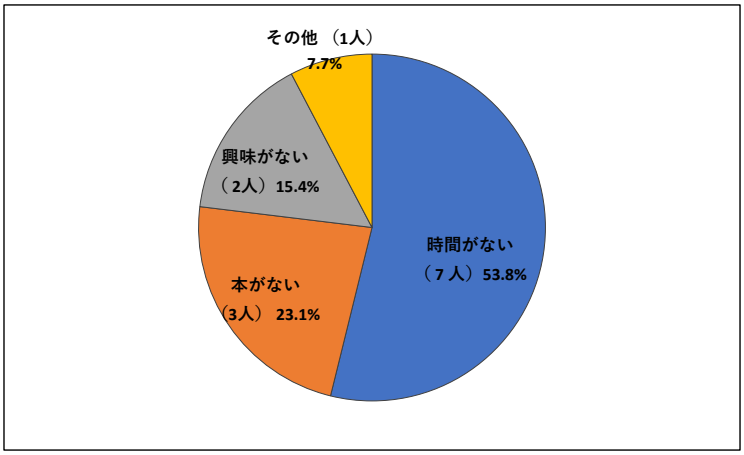
【傾向と分析】
「読んでいる」「たまに読んでいる」を合わせると約８８％を占め、読み聞かせを行っている家庭が多いことが解った。

問2　　（問1で読んでいる･たまに読んでいると回答した方）お子さんが何歳くらいから読み聞かせをしましたか。



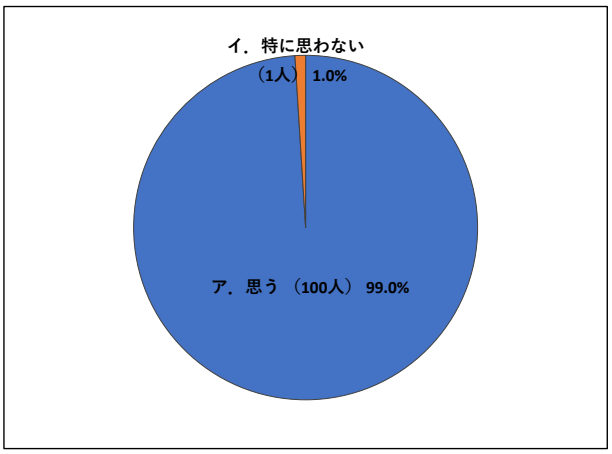
【傾向と分析】
「０歳から」約５５％、「１歳から」約３０％、「２歳から」約９％、「３歳から」約6%という結果から、０歳から３歳までの間に読み聞かせをスタートしていることが解った。幼いころから本に親しむことが大切だと考える方が多く（問４）、乳幼児から読み聞かせを行っている。お子さんが小さいうちは、反応がない、興味がないということから、読み聞かせを止めてしまうとの意見もあった。

問3　　（問1で読んでいないと回答した方）読み聞かせをしていないのはどうしてですか。



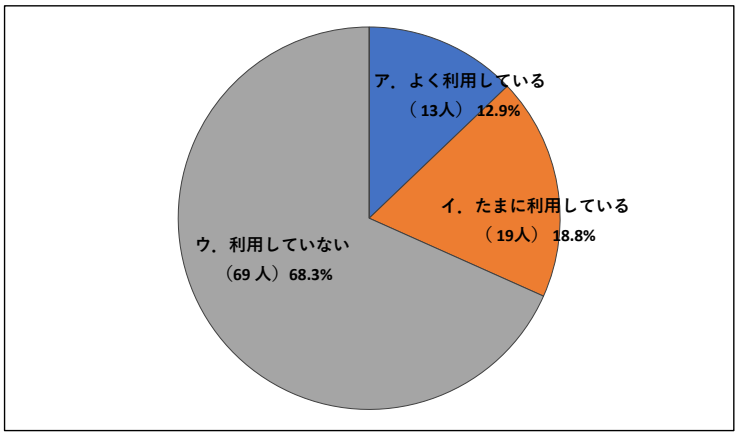
【傾向と分析】
「時間がない」が約54%、「本がない」約23%、「興味がない」約15%。共働きが多いことから、読み聞かせ以外に時間を使っていると予測。「本がない」「興味がない」については、自身で読み聞かせを行う意識が低いことが考えられる。

問4　　幼いころから本に親しむことは大切なことだと思いますか。



【傾向と分析】
「思う」が約99%ということから、０～１歳のうちから読み聞かせを行っている家庭が多いことがわかった。問３の結果からわかるように、本に親しむことは大切とは思っているが、時間がないことから実行できていない。

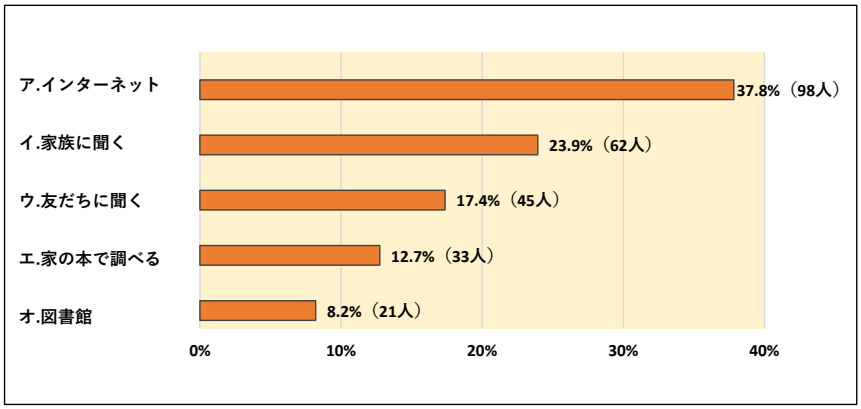
問5　　電子書籍を利用していますか。



【傾向と分析】
「よく利用する」「たまに利用する」を合わせても約32%で、「利用しない」が半数以上を占めた。

問6　　知りたいことがあるとき、どのように調べますか。

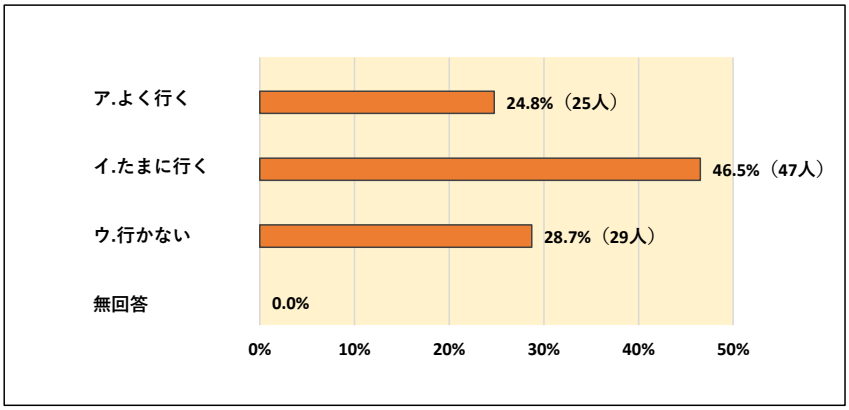
ア．インターネット		イ．家族に聞く		ウ．友だちに聞く		エ．家の本で調べる		オ．図書館で調べる		計	
98	37.8%	62	23.9%	45	17.4%	33	12.7%	21	8.2%	259	100.0%



【傾向と分析】
「インターネット」約38%、「家族に聞く」約24%、「友達に聞く」約17%、「家の本で調べる」約13%、「図書館で調べる」約8%という順。設問は複数回答であり、インターネットを調べものの時に利用する回答者数は101人中の98人を占めていることが解った。

問7　　あなたは足寄町図書館にお子さんと行くことがありますか。

ア．よく行く		イ．たまに行く		ウ．行かない		無回答		計	
25	24.8%	47	46.5%	29	28.7%	0	0.0%	101	100.0%

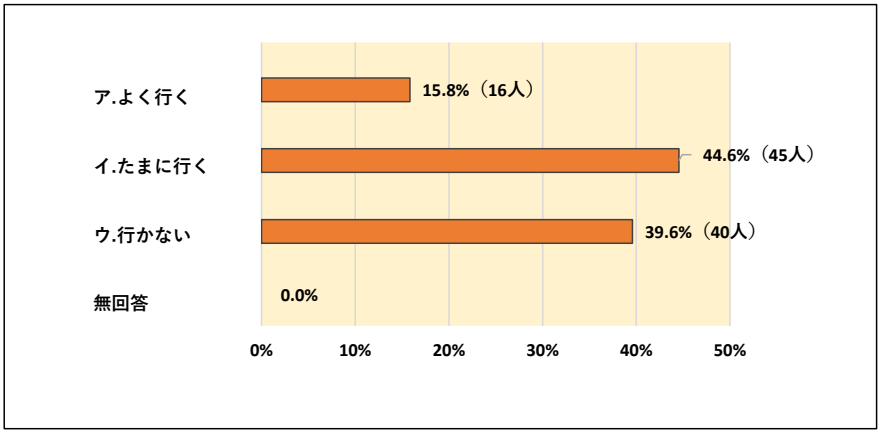


【傾向と分析】

「よく行く」「たまに行く」を合わせると約71%という結果から、図書館を利用されていることが多いことが解った。絵本作家講演会をきっかけに図書館へ通うようになったという記述もあった。

問8　　あなた自身は足寄町図書館へ行くことがありますか。

ア．よく行く		イ．たまに行く		ウ．行かない		無回答		計	
16	15.8%	45	44.6%	40	39.6%	0	0.0%	101	100.0%

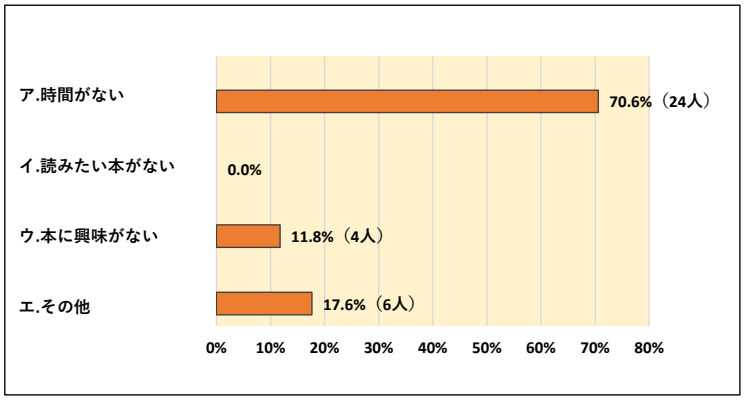


【傾向と分析】

「よく行く」約16%「たまに行く」約45%、「行かない」約40%という結果。「よく行く」は問７のお子さんと一緒の場合より約9%減少し、「行かない」は約11%上昇した。自分自身の為に図書館を利用するというより、お子さんの為に利用、家族で利用していることが窺える。

問9　図書館に行かないのはなぜですか。

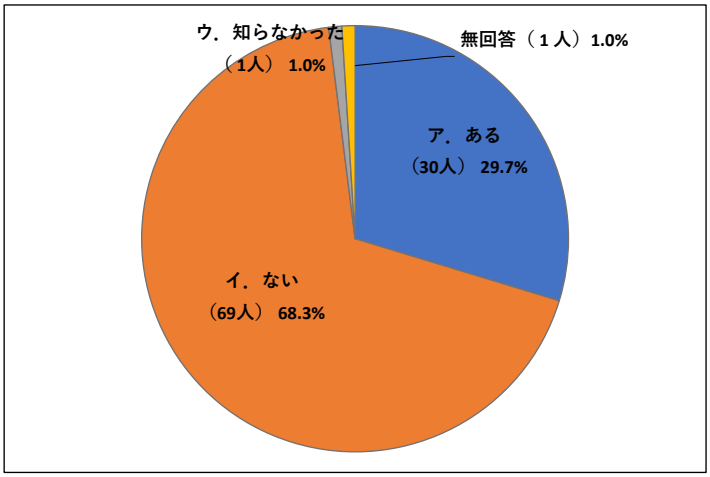
ア．時間がない		イ．読みたい本がない		ウ．本に興味がない		エ．その他		計	
24	70.6%	0	0.0%	4	11.8%	6	17.6%	34	100.0%



エ．その他
・行ったことがない。子どもが小さいため、騒ぐと迷惑になってしまう。
・遠いから。へき地は返却期限が一ヵ月なら必ず利用するし、しやすい。
・子供が２歳で、まだじっとしてくれないので行きたいけどなかなか行けない。
・子連れが負担。

【傾向と分析】
読み聞かせをしていない理由と同様で「時間がない」（約71%）という回答が多かった。問４の結果から、本に親しむことは大切だと感じていることから「本に興味がない」（約12%）は、お子さん自身が興味を示さないことと予測できる。「その他」（約18%）は、図書館に遠いため頻繁に通うことができない、お子さんが小さいので負担がかかる又は迷惑がかかってしまう為利用しにくいという理由。通いたくても通いにくい環境や状況であることが解った。

問10　図書館の読み聞かせに参加したことがありますか。



【傾向と分析】
「ある」約30%、「ない」約68%、「読み聞かせが行われている事を知らなかった」約１%で、乳幼児から参加できるおはなし会の参加率は高いが、その反面平日開催の為、参加できてない方も多いことがわかった。土曜に幼児から参加できるおはなし会も行っているが、参加率は少ない。

問11　目由記述

【傾向と分析】
DVDの貸し出しや読み聞かせスペースのベビーゲート設置、託児の要望などがあった。
また、「検索機の表示場所がわかりにくい」、「開館時の返却ポスト使用」など図書館の利用について不便性がうかがえた。その他にも図書館入口に近い談話室の中高生利用マナーや市街地以外の保育所への読み聞かせや貸出・返却方法の検討の意見もあった。
全般的には、図書館及び職員に好意的な意見が多く、親子で楽しく利用してもらっている様子がうかがえました。また、展示コーナーの設置により好きな本と出合えたり、本が探しやすいなど好評だった。

足寄町子どもの読書活動推進計画

～心をつなぐみんなの本棚～
令和2年度～令和4年度
（2020～2022）

発行　足寄町図書館

所在地
〒089-3711 足寄町南1条5丁目3番地
TEL:0156-25-3189　Fax:0156-25-4303